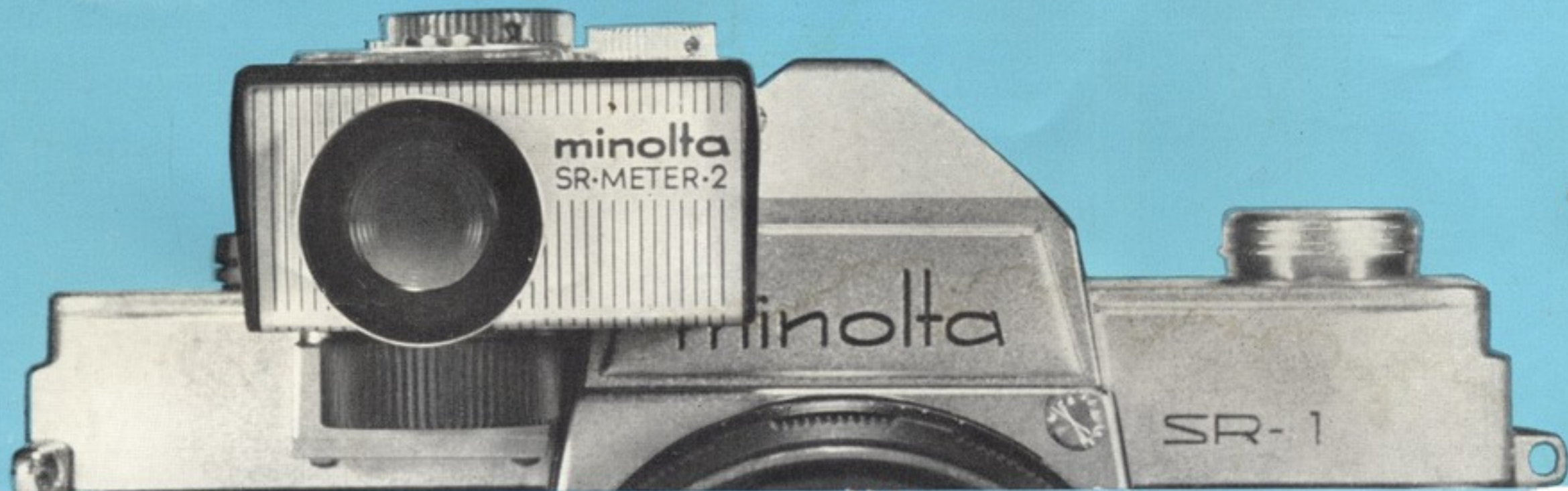


Minolta SR-1

使用說明書



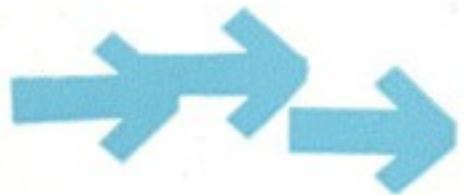
お買い上げありがとうございます

今日からあなたの愛機となった新しいミノルタ SR-1 は性能も形能もすべて最高級の性能をそなえたペンタプリズム式一眼レフカメラのホープとして完璧な品質と性能をそなえています

カメラをご使用になる前によくこの使用書をお読みになってこのカメラの特性を十二分にご活用ください

撮影される前にお読みください

ミノルタ SR-1 のメカニズム.....	4	露出について.....	20
写し方 はやわかり	6	ミノルタ SR メーターの使い方.....	21
フィルム の入れ方.....	8	測定の方法.....	28
フィルム感度の合わせ方.....	11	焦点調節と構図の決め方.....	30
巻き上げレバーの使い方.....	12	カメラの構え方とシャッターの切り方.....	32
シャッター速度はこうして.....	13	撮影が終わったとき.....	34
絞りの合わせ方.....	14	セルフタイマーの使い方.....	36
完全自動絞りについて.....	15	フラッシュ撮影について.....	37
被写界深度とは.....	16	レンズ交換はこうして.....	40
絞りボタンの使い方.....	18	各種附属品について.....	42



ミノルタ SR-1 のメカニズム

ペンタ・ダハ・プリズム

巻き上げレバー

シャッターダイヤル

シャッターボタン

撮影枚数表示窓

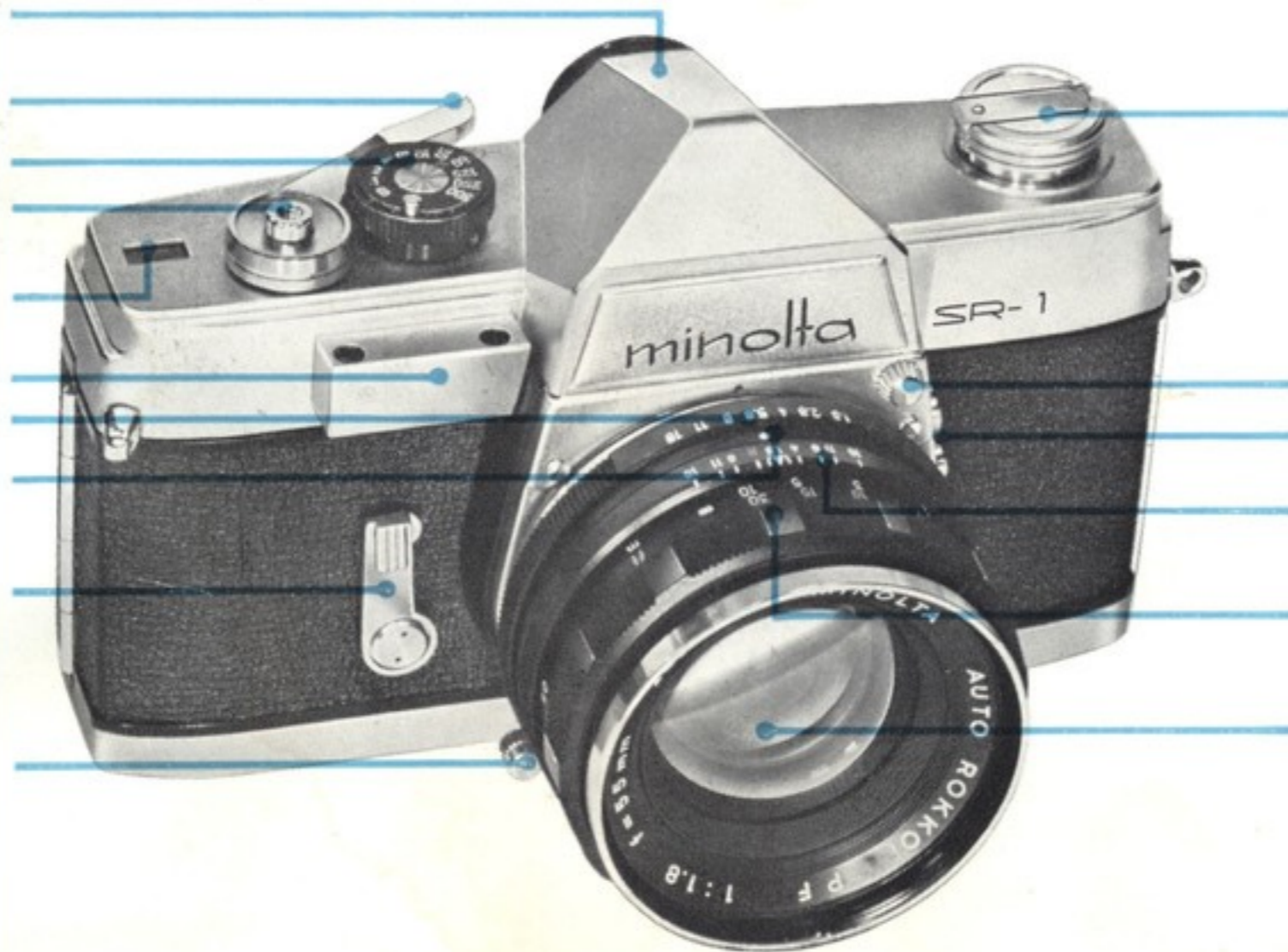
SRメーター取付けシュー

絞りリング

被写界深度目盛

セルフタイマーレバー

絞りボタン



フィルム巻き戻しクランク
兼裏ふた開閉ノブ

レンズ交換用ボタン

シンクロターミナル

距離目盛

焦点調節リング

標準レンズ

フィルム圧着板
フィルム巻取り軸
スプロケット
ファインダーのぞき窓
シャッター幕
パトローネ受け軸
三脚ねじ穴

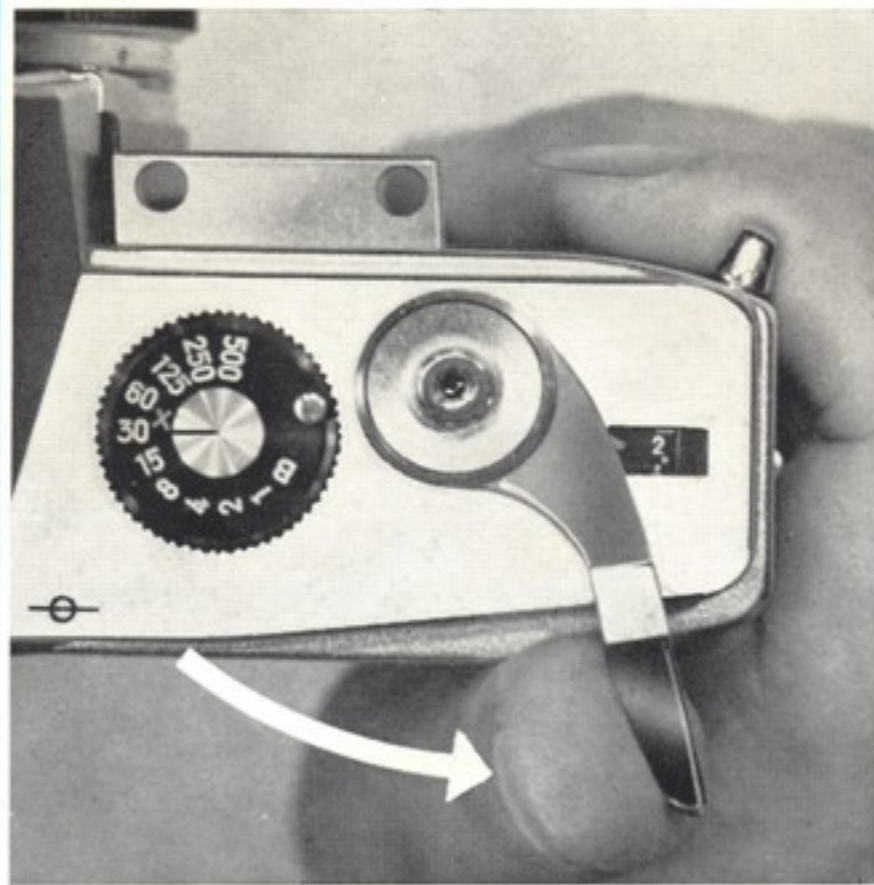
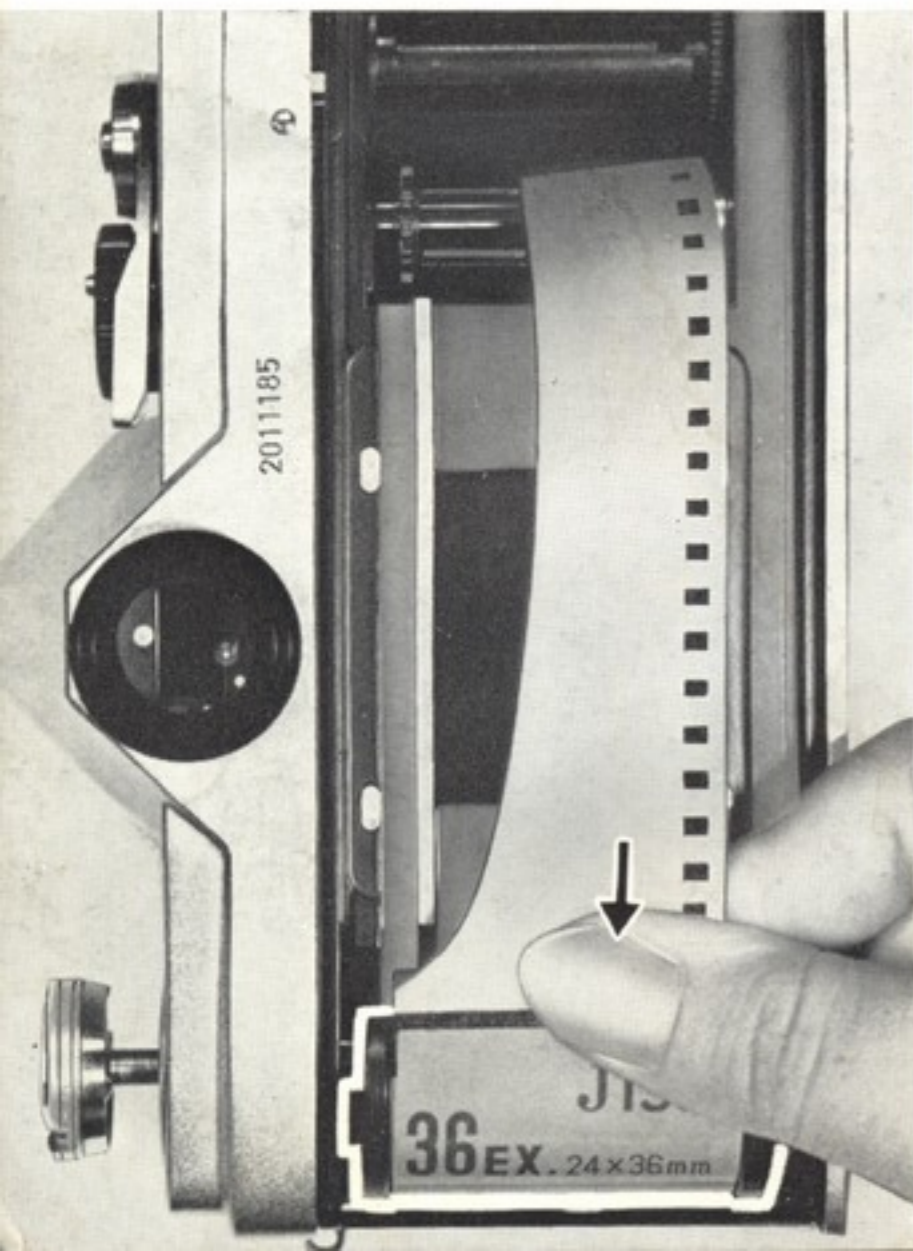


フィルム巻き戻しボタン

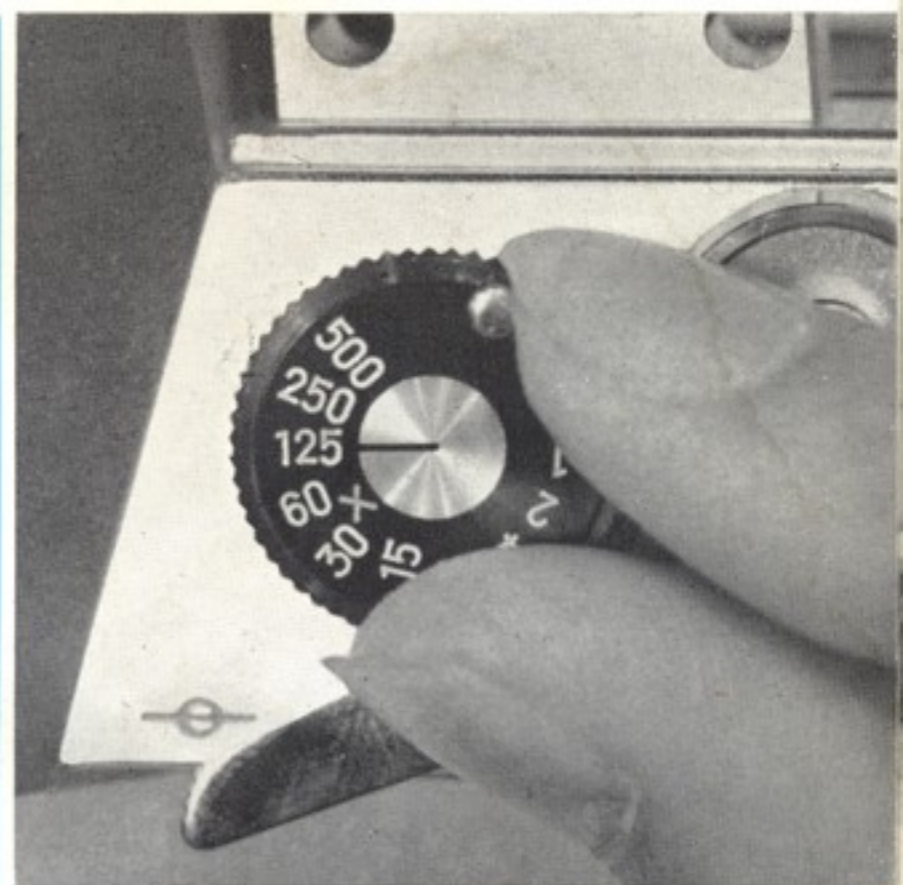


写し方はやわかり

1 フィルムを入れます



2 レバーを巻き上げます



3 シャッター速度を合わせます

各操作について次頁から詳しくご説明いたしましょう
(SRメーターをお使いの方は22頁をごらんください)



4 絞りを合わせます



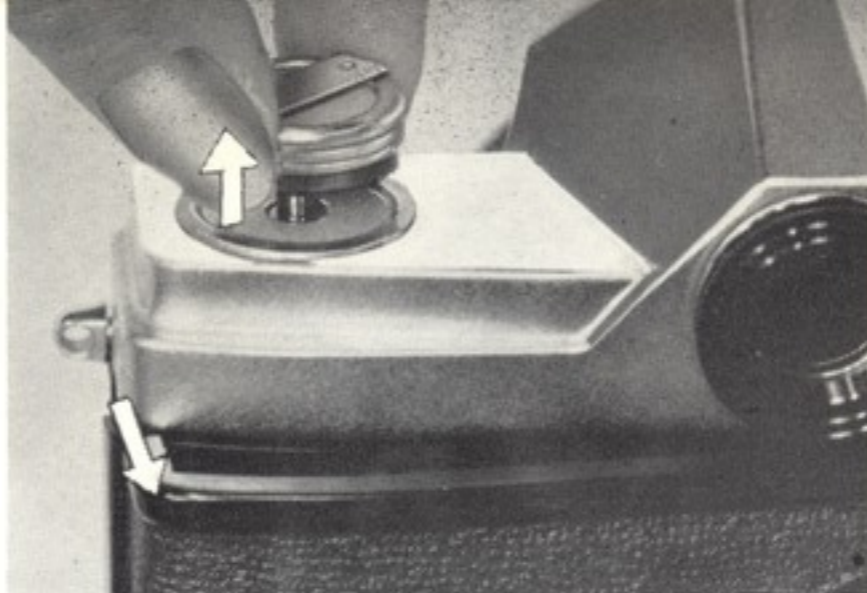
5 ファインダーをのぞいて焦点を合わせます



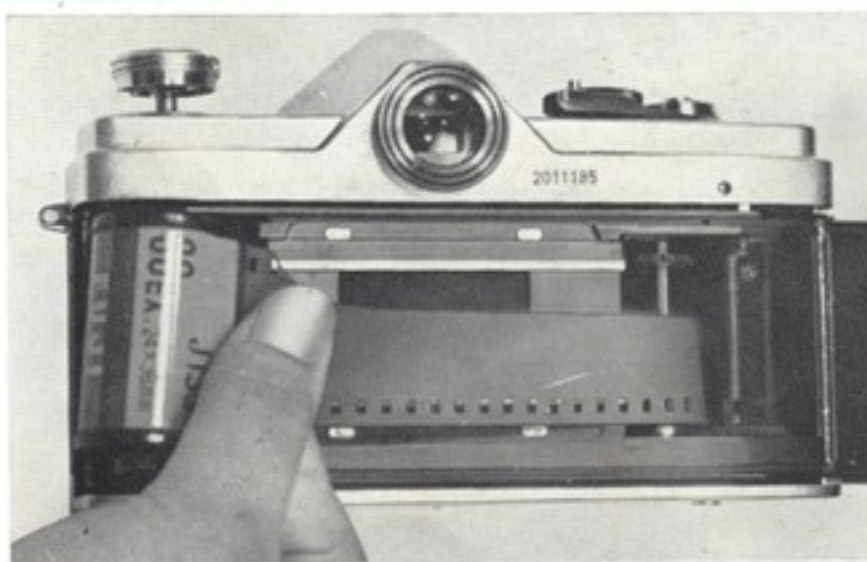
6 シャッターボタンを押します



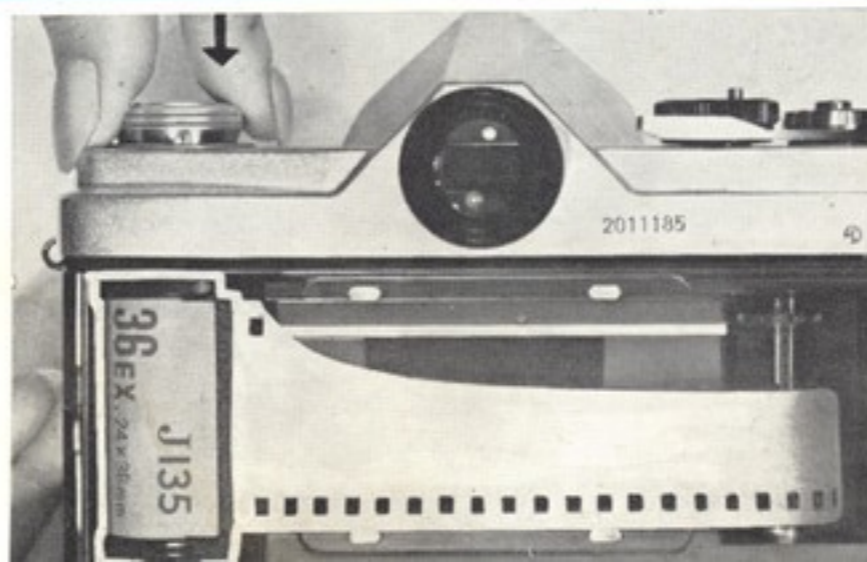
フィルムの入れ方



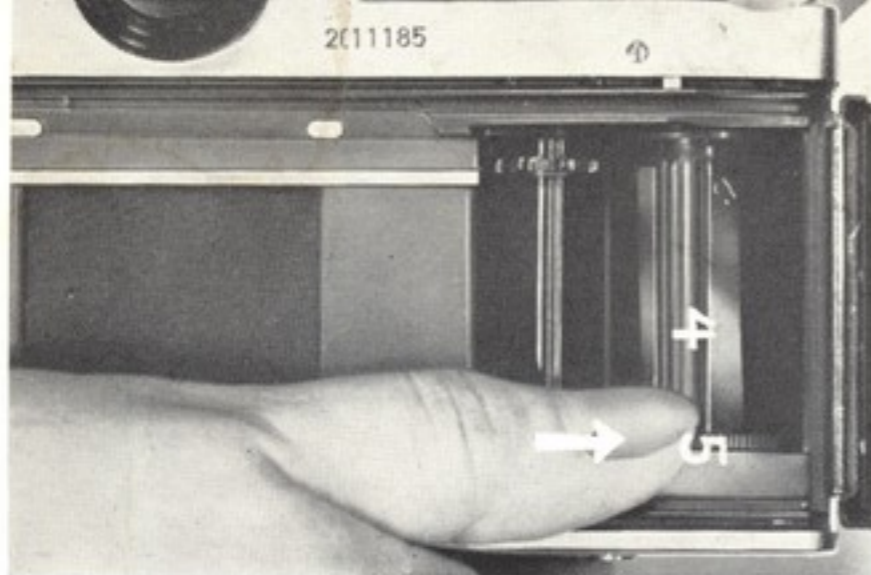
- 1 裏ふた開閉ノブ（巻き戻しノブ兼用）を一段引き出し、さらに強く少し引くと裏ふたが開きます
(裏ふたが開くと撮影枚数盤は自動的にスタートS位置に戻ります)



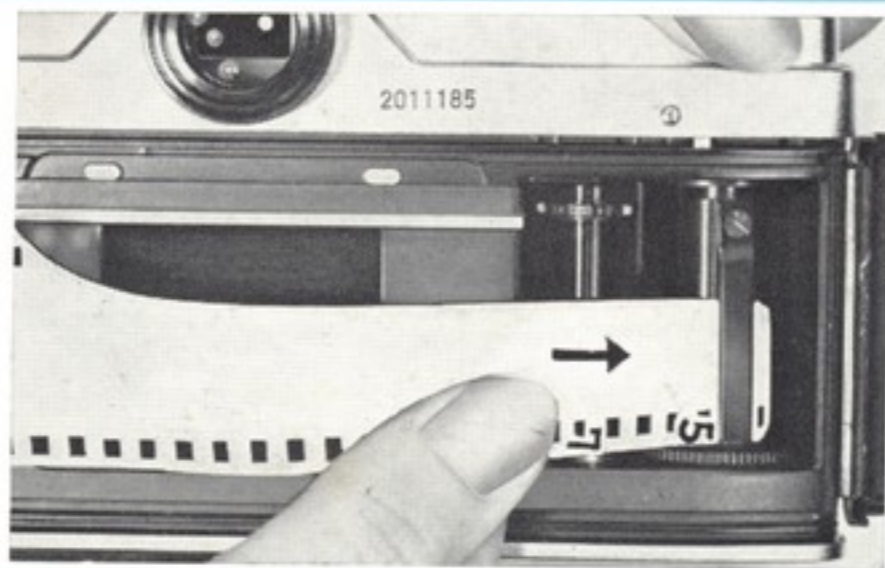
- 2 パトローネをカメラのフィルム室に入れます
(このとき、パトローネの軸の出ている方がカメラの底の方へくるようにし、軸の出ている方をカメラの受軸にはめるようにして先に入れます)



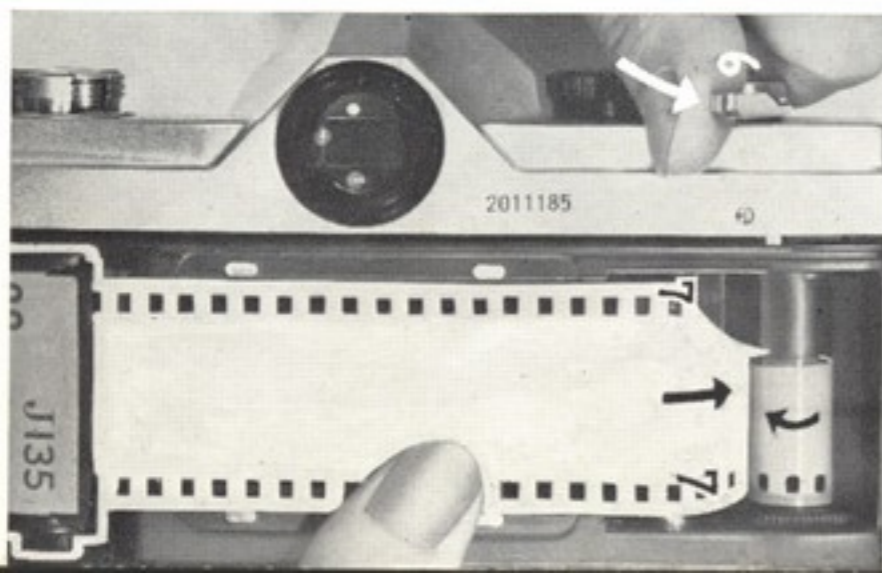
- 3 裏ふた開閉ノブを元通りに押し込みます
(はいりにくいときは、少し左右に回して完全に押し込んでください)



4 フィルム巻き取り軸④の端にある歯車⑤を指先で回してフィルムを差し込むクリップを上側に出します

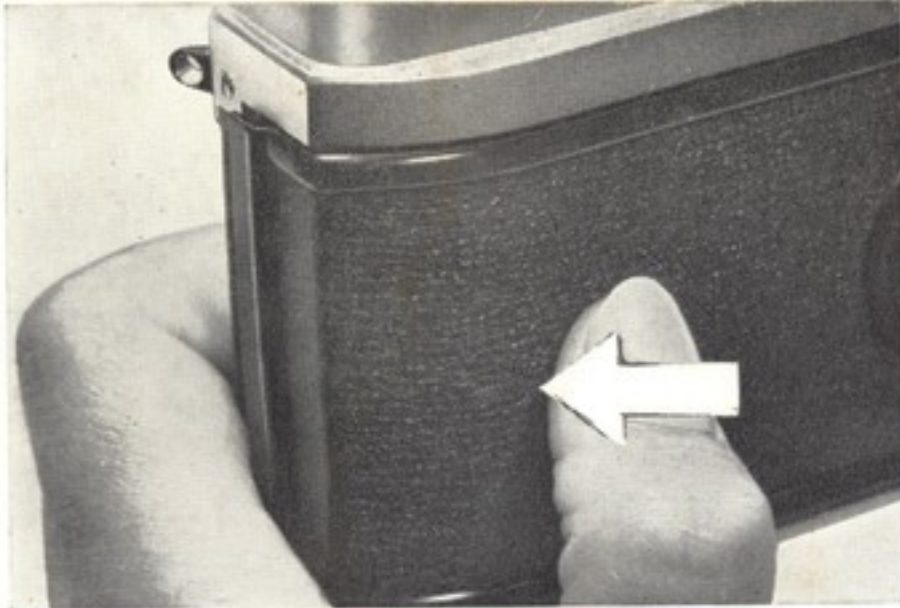


5 フィルムの先端をパトローネから少し引き出し、図のように手前側から歯車⑤に沿わせてクリップに差し込みます
(フィルムの先端がクリップから5ミリ位出たところで止め、フィルムの送り穴をスプロケットの歯⑦にはめます)

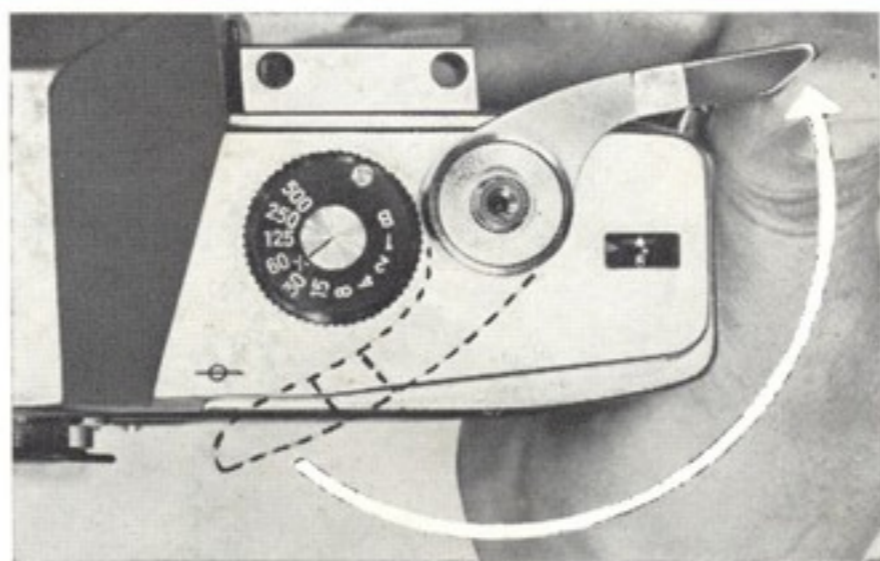


6 巻き上げレバー⑥を少しずつ回してフィルムの両側の穴にスプロケット⑦の歯がかみ込むところまでフィルムを巻き取った方が安全です
(途中で巻き上げレバーが動かなくなればシャッターボタンを押すと再び動くようになります)

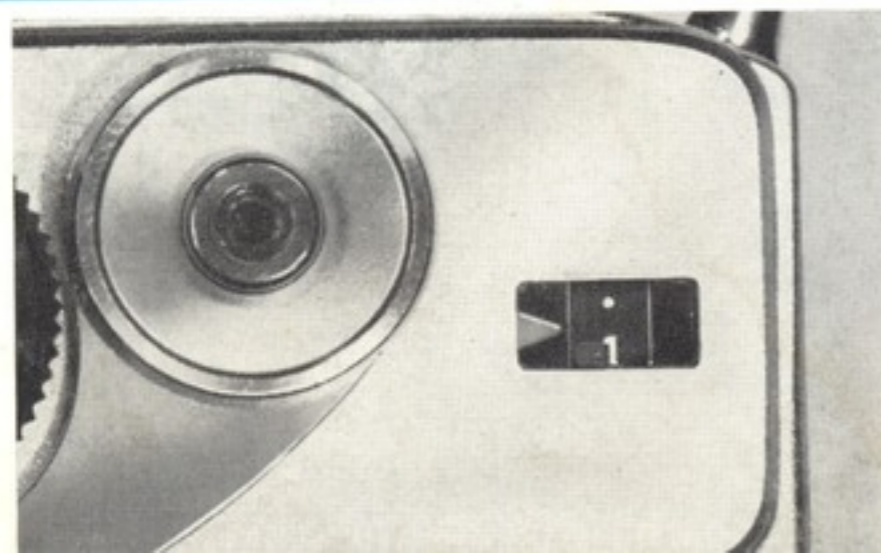
フィルムの出し入れは日陰で行ってください。フィルムを入れるときシャッター幕にさわらないようご注意ください



7 フィルムが平行に巻き取られていることを確かめてから裏ぶたをパチンとしめます



8 巻き上げレバーを止まるところまで回してシャッターボタンを押します。さらにもう一度巻き上げレバーを止まるところまで回します。これでフィルムが撮影位置に送られました。同時にシャッターもセットされています



9 撮影枚数表示窓をごらんください。赤い▲印が1を指しています。これでシャッターを押せば1枚目の撮影ができるわけです。以後フィルムを巻き上げると撮影枚数計は自動的に一目盛ずつ進みます。

フィルム感度の合わせ方



忘れないうちに、フィルム感度インディケータ（表示板）を、今装填したフィルムのASA（またはDIN）感度数に合わせておきましょう。あとで、露出を決める場合に、使用中のフィルムの感度を知る必要があるからです

ダイヤルの突起を回してASAと書いた白線にフィルムの感度数を合わせればよいのです

たとえばASA 100のフィルムならこの写真のように合わせます。カラーフィルムの場合は赤字の目盛の方を合わせてください

S	級	フ	ィ	ル	ム	ASA	50
S	S	級	フ	ィ	ル	ム	100
S	S	S	級	フ	ィ	ル	ム
ネ	オ	パ	ン	F			32
フ	ジ	カ	ラ	ー	R	100	ASA
さ	く	ら	天	然	色	フ	ィ
コ	ニ	カ	ラ	ー	ネ	ガ	テ
フ	ジ	カ	ラ	ー	リ	バ	ー
フ	ジ	カ	ラ	ー	ネ	ガ	テ
オ	リ	カ	ラ	ー	ネ	ガ	テ

その他のフィルムは、フィルムの箱または説明書をごらんください

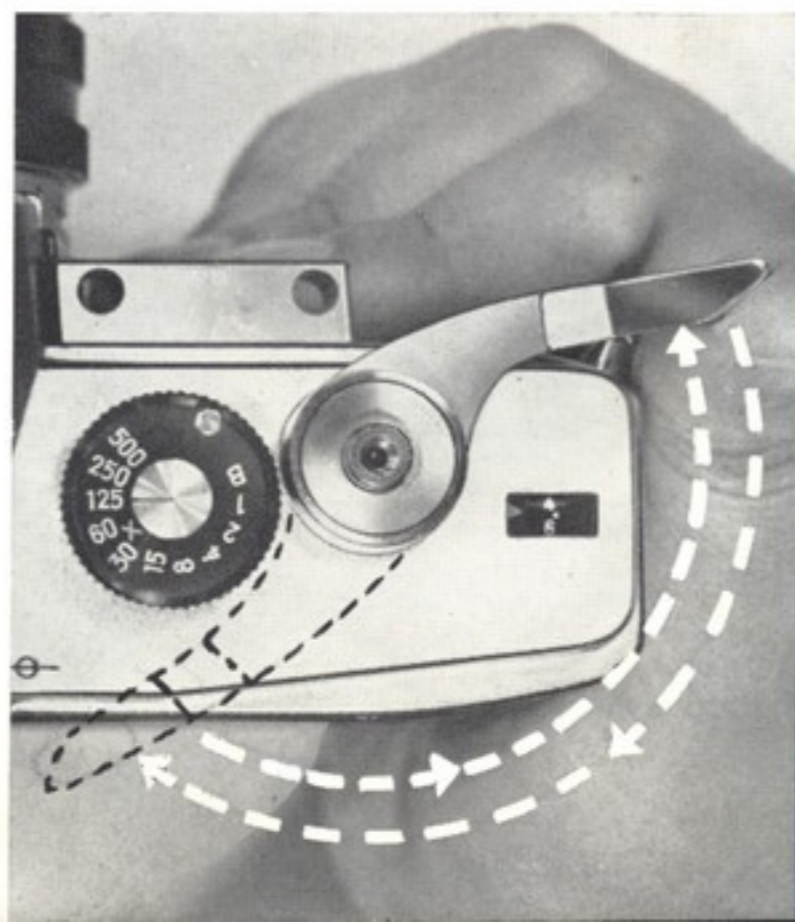
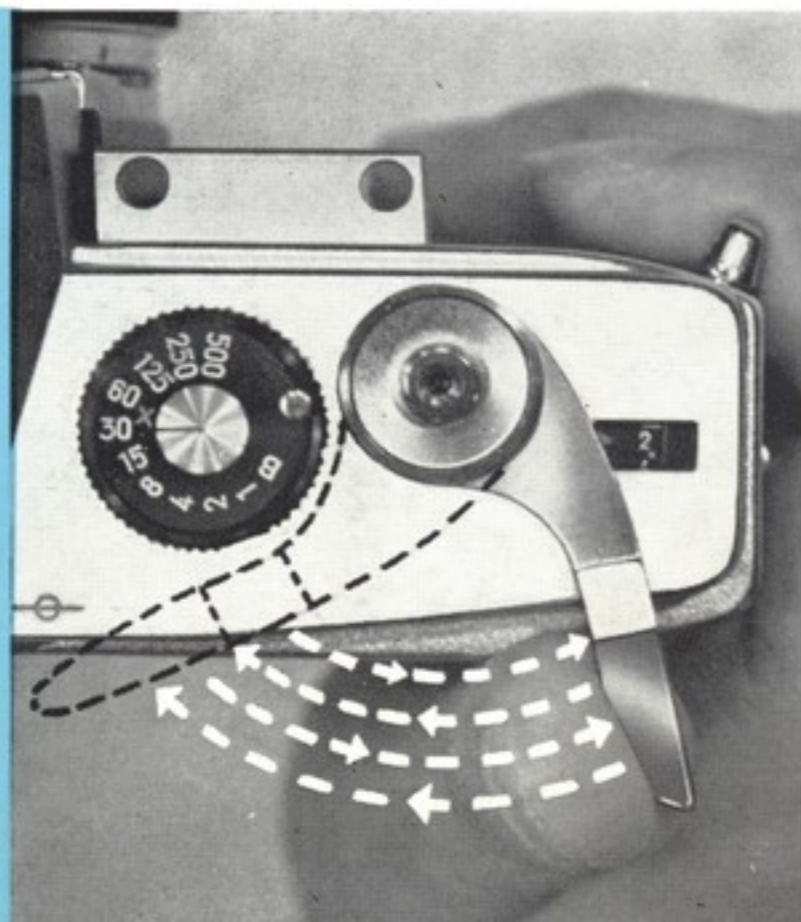
巻き上げレバーの使い方

巻き上げレバーを止まるまで完全に回さないとシャッターボタンは動きません

1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のようなスローシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから、次のフィルムの巻き上げをしてください。フィルムを巻き上げた場合、内部でフィルムが正しく進行している場合には、巻き戻しノブが矢印と反対の方向に回ります。従ってフィルムを巻き上げるときは巻き戻しノブに触れないようにしてください

(但し、最初の内、パトローネ内のフィルムがゆるんでいる場合はしばらくの間、回らないことがあります)

巻き上げレバーは止まるまで完全に回してください
一度に巻き上げて
または数回に分けて
止まるまで小さきざみに巻き上げて
もかまいません



巻き上げレバーを止るところまで回すと

- 1 フィルムが一コマ巻き上げられ
- 2 撮影枚数計が一目盛進み
- 3 シャッターがセットされ
- 4 自動絞り機構の準備が完了します



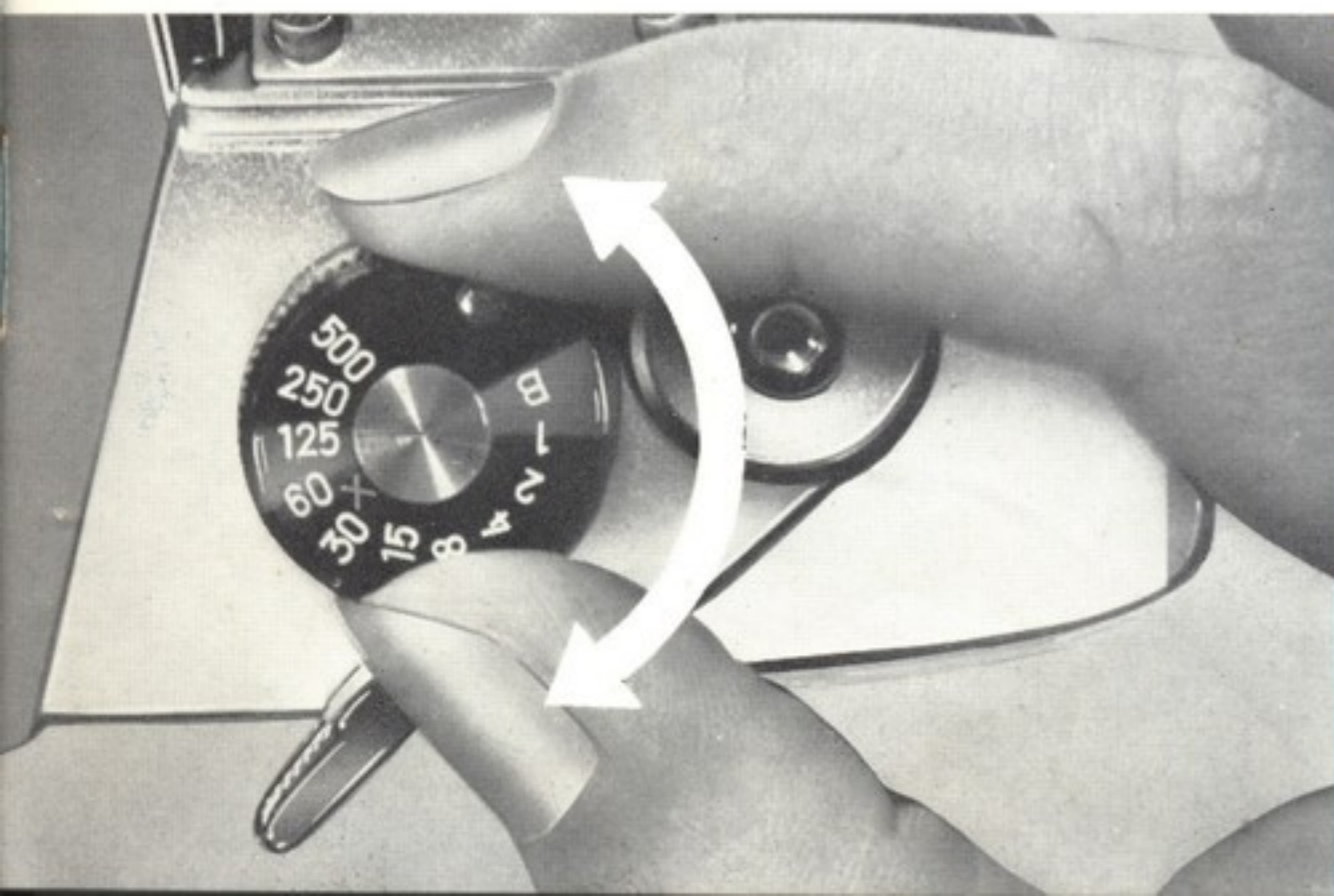
シャッター速度はこうして……………

ミノルタ SR-1 のシャッターは進歩した単一不回転速度ダイヤル式になっていますから、低速から高速まで一操作で速度の調節ができ、しかも撮影のときダイヤルに指が触れて速度が狂うようなことはありません

シャッター速度のダイヤルには B と 1 から 500 までの数字が刻まれています。1, 2, 4, 8, 15, …500 の数字はそれぞれ 1 秒、 $\frac{1}{2}$ 秒、 $\frac{1}{4}$ 秒、 $\frac{1}{8}$ 秒、 $\frac{1}{15}$ 秒… $\frac{1}{500}$ 秒のシャッター速度を表わしています

B はバルブといって、この目盛に合わせておくとシャッターボタンを押している間中、シャッターが開いています。これは 2 秒以上の長い露出をするときに使います

赤字の X は X 接点といってスピードライト(ストロボ)を使って撮影するときに合わせる目盛で約 $\frac{1}{50}$ 秒になります
詳しくは 39 ページをごらんください



シャッター速度ダイヤルはそのまゝ回わして、希望する速度目盛をダイヤル中央の**赤線**に合わせます。各ダイヤルは左右どちらへ回わしても結構です。シャッター速度の変更はフィルムを巻き上げる前後どちらでもさしつかえありません

各目盛の中間速度は使わないでください



絞りの合わせ方…

絞りリングには1.8から16までの絞り目盛（F値）が白字で刻まれています

絞りリングに希望する絞り数字（白字）を、前部の白点に合わせてカチリと止ります

F1.8からF16まで各目盛間の中間にセットしますと、中間絞りの使用も可能です。絞りは数字が大きくなるほど、レンズを通してフィルム面にとどく光量が少くなります。その割合は上図のようにF1.8から順次F16まで次第に光量が $\frac{1}{2}$ に減っていきます。なお、絞りの調節はフィルム巻き上げの前後いずれでもかまいません

絞り
光量

1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
24	1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32



完全自動絞りについて

ミノルタ SR の特長は、完全自動絞り機構にあります

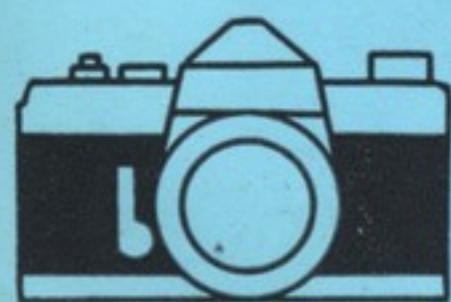
この自動機構は巧妙な独創的設計によって、常に絞りが自動的に開放となっているので、明快な視野で構図の決定と焦点調節が迅速にできます。シャッターボタンを押せばシャッターが切れる瞬前に、前もって選んでおいた絞り値まで自動的に絞られ、シャッター膜が走り去ると同時にもとの開放になります

ですからファインダーは常に開放の明るさを保ち暗いところでも充分ピント合わせが可能です。従って、スナップのときなど、一々絞りを開放にしたり、絞ったりする手数がはぶけ、シャッターチャンスをつめるのに非常に便利です

しかもこの完全自動絞り機構は、標準レンズの他に35mm広角、100mm、135mm望遠レンズに対しても同様に働き、フィルム巻き上げ前後いつレンズ交換をしても、交換レンズの絞りは常に自動的に開放になっています

シャッターボタンを押すと一瞬の間にこれだけの作動をします

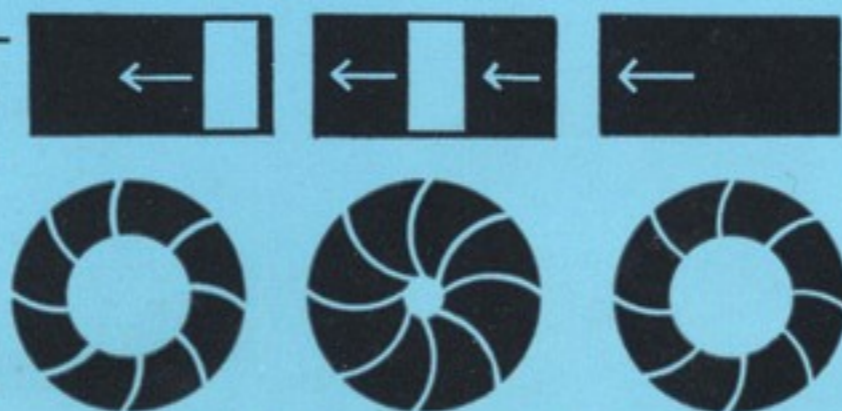
レンズが決められた絞り値となって又開きます



シャッターボタンを押すと



ミラーが上り



レンズが絞られるとシャッターが作動します



ミラーがもどります





被写界深度とは

レンズというものは、ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが鮮鋭に写るだけでなく、その前後にも実用上十分鮮鋭に写る範囲があります

これをレンズの**被写界深度**といいます

下の写真はこの関係を示す作例で、左側はレンズを開放に近い状態（F1.8）にした時であり、右側は小絞り（F16）にしたときのものです。ごらんのように小絞りの方が被写界深度が深いのです





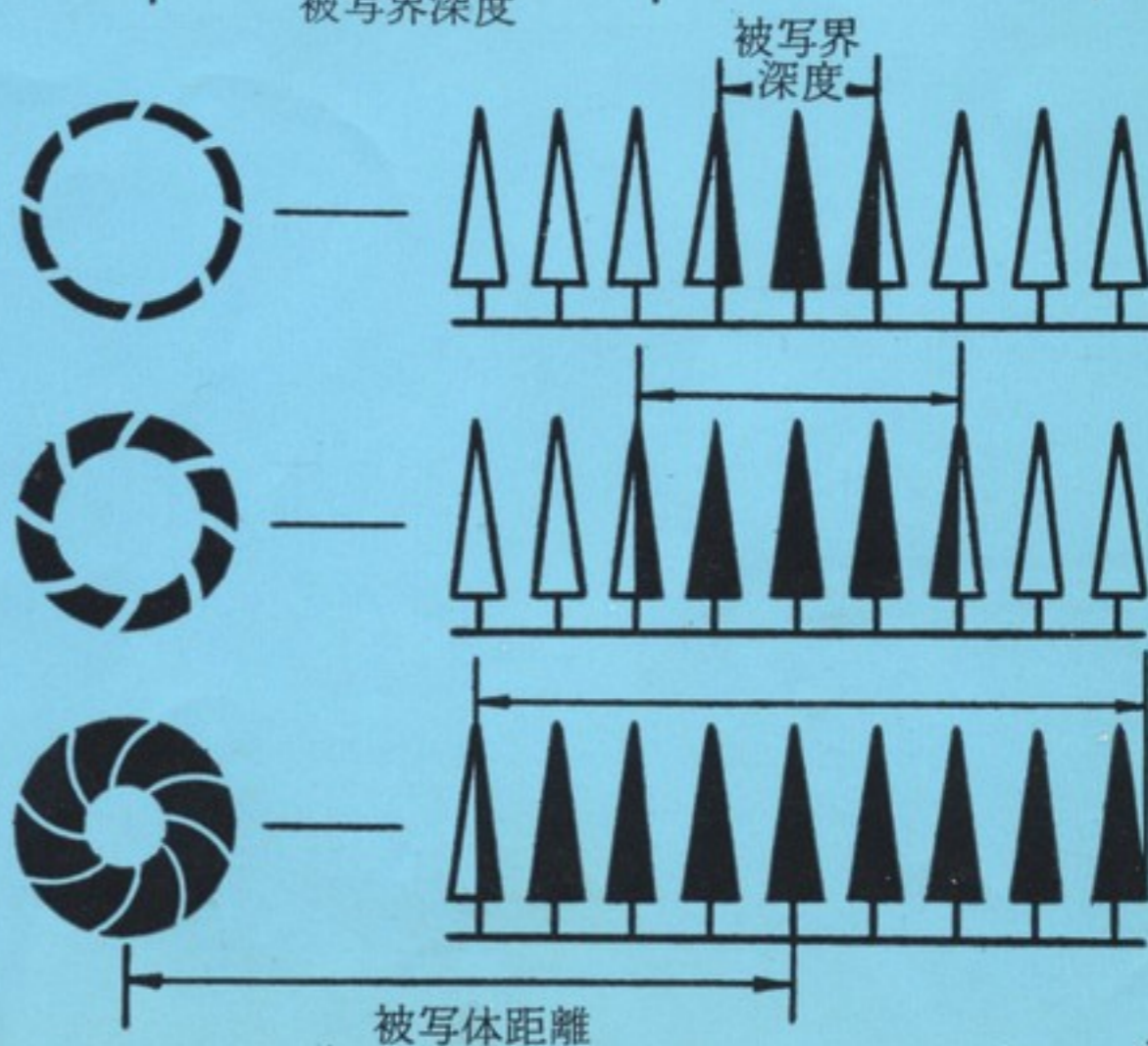
被写界深度の性質とその利用

同じレンズでは

1. 絞りを小さく絞るほど被写界深度は深くなります
2. 近距離よりも遠距離にピントを合わせたときの方が深くなります
3. 焦点を合わせた被写体の前より後の方が深くなります

なお、焦点距離の短いレンズほど深くなります

被写界深度は、絞の変化によって自由に深くしたり浅くしたりすることができるため、近距離にいる人物とともに遠くの背景も一様に鮮鋭に写したい場合や、逆にわずらわしい背景を適当にボカして、人物だけを鮮鋭に写して迫力を強調する場合など、背景及び前景の鮮鋭度を適当に調節して、写す目的や画面効果をあげるのに利用します

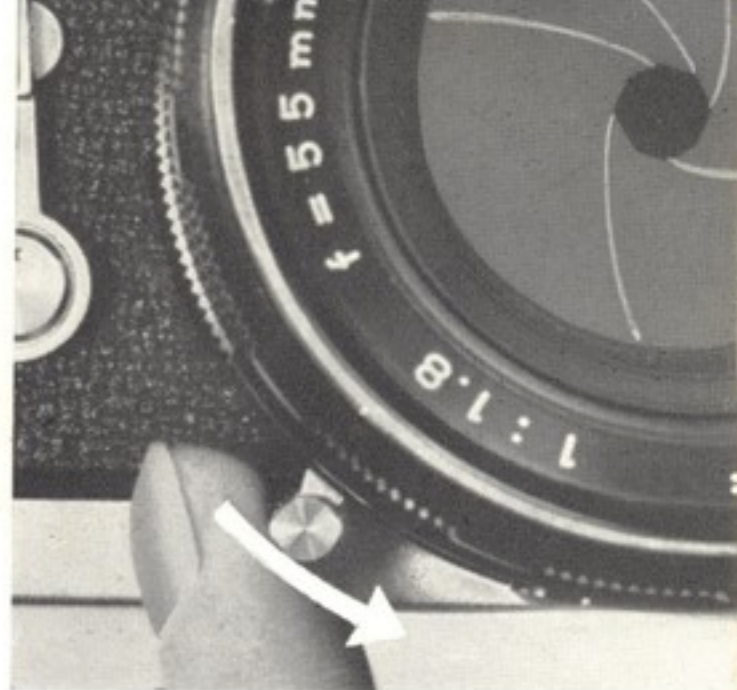


絞りボタンの使い方

このレンズは、完全自動絞り付で撮影の前後 常に絞りが自動的に開放となります。そこで撮影前、絞り効果を検討するとき絞りボタンを使います

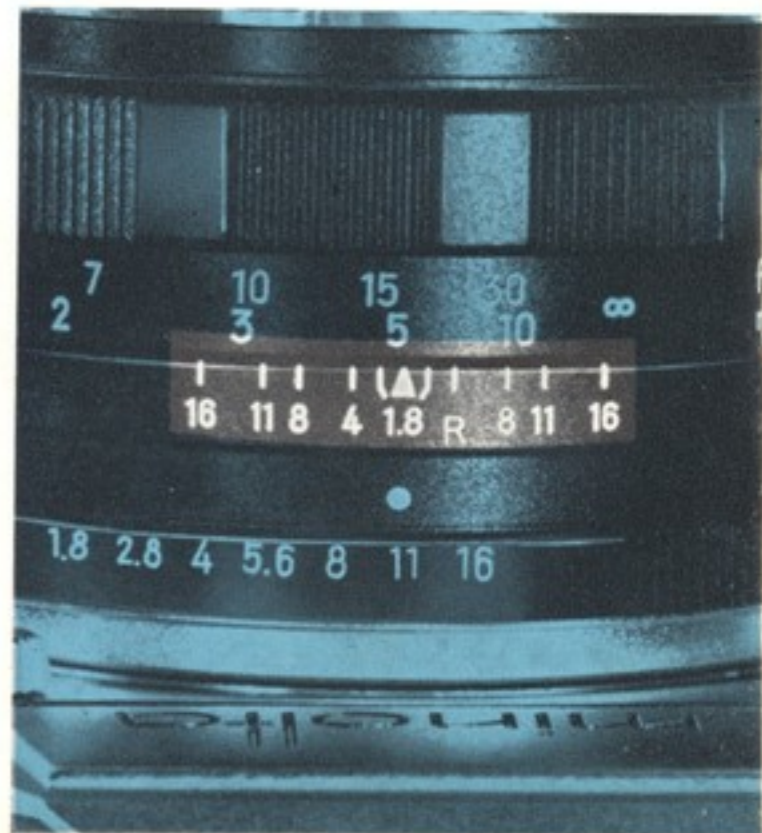
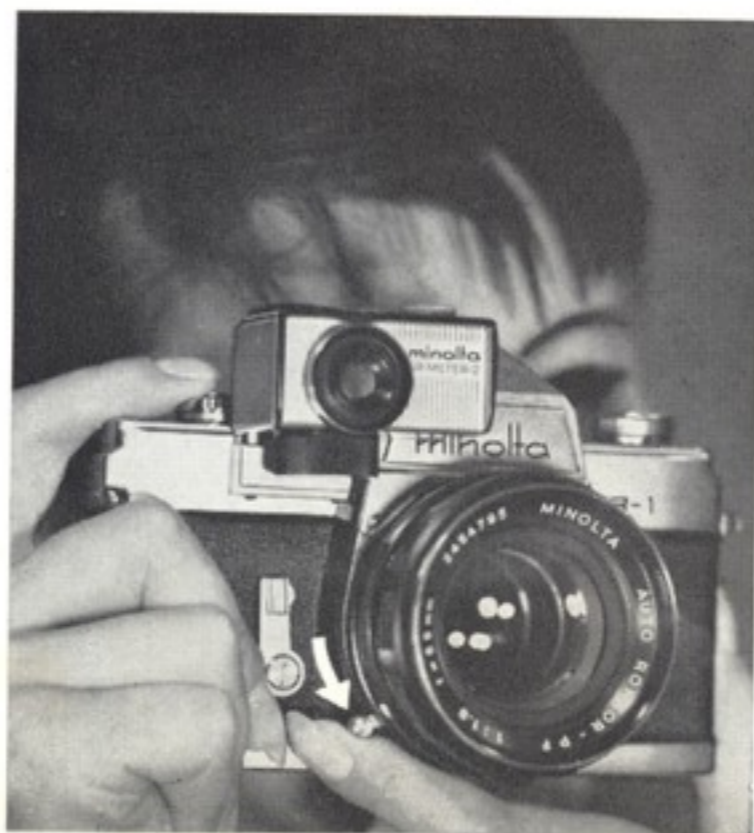
絞りの目的は、露光量とピントの合う範囲（焦点深度の項参照）を調節する働きをします

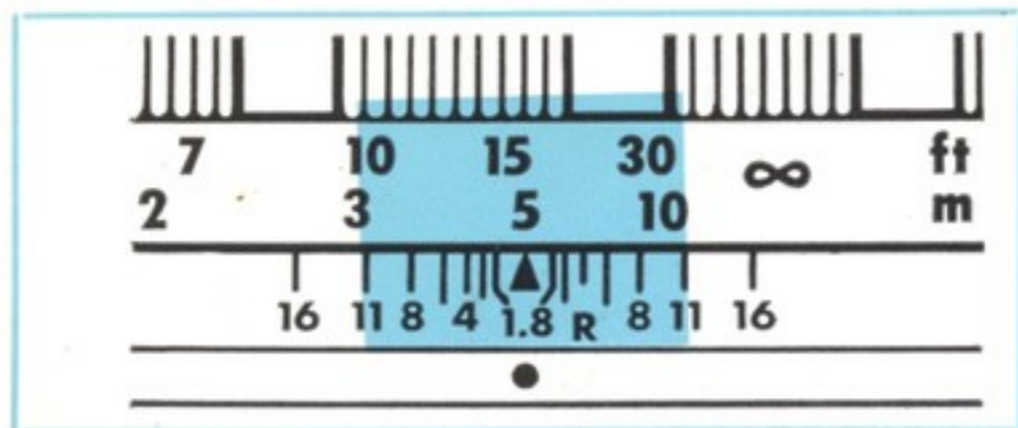
ファインダーを覗き、絞りボタンを写真の矢印方向に止るまで押し下げますと、使用する絞り値でのピントの合う奥行きや、背景のボケ具合がよく解ります。又これを利用すると撮影にどの絞りがもっとも作画意図に適するかを決めるにも役立ちます



被写界深度目盛の見方

ミノルタSRの絞りボタンを押し下げて絞りを合わせると、ファインダーを通して各距離における被写界深度（ピントの合っている奥行）の程度がよくわかります。また、ピントの合う奥行きの限界距離を知るには、レンズ鏡銅の距離目盛のそばに刻んである被写界深度目盛を利用すると簡単にわかります





被写界深度目盛(上図)の中央にある▲印は焦点を合わせた被写体までの距離を示しています。そしてこの▲印の両側にある同じ絞り数字が、各絞りの場合の被写界深度、つまり鮮鋭に写る範囲を示しているのです。上図をごらん下さい▲印が5を示しています。つまり被写体までの距離が5mということです。この場合、仮に絞りをf11で写すとすれば、被写界深度は▲印の左右の11の目盛が示す距離目盛の範囲、つまり約3mから約14mの間で、この範囲にあるものはみな鮮鋭に写るわけです。絞るほど被写界深度が深くなることも上図でわかりましょう。

オートロッドコール PF 55mm F 1.8 の被写界深度表→

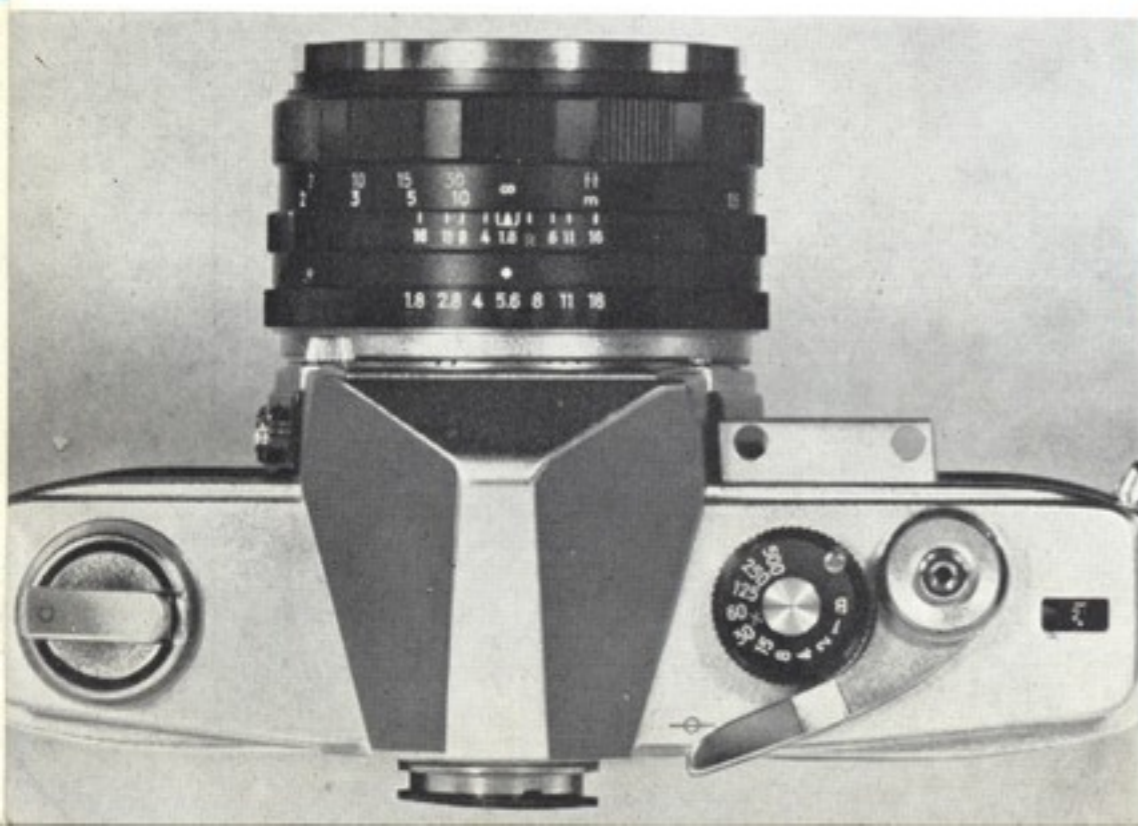
絞(F) 距離(m)	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
∞	45.87 ∞	29.51 ∞	20.67 ∞	14.78 ∞	10.36 ∞	7.55 ∞	5.20 ∞
20	13.96 35.31	11.96 61.52	10.20 567.15	8.54 ∞	6.86 ∞	5.51 ∞	4.15 ∞
10	8.23 12.74	7.50 15.04	6.77 19.18	6.00 30.38	5.13 247.83	4.34 ∞	3.46 ∞
7	6.09 8.23	5.68 9.13	5.26 10.49	4.78 13.12	4.21 21.04	4.18 86.65	3.02 ∞
5	4.52 5.59	4.29 5.99	4.05 6.54	3.76 7.47	3.41 9.48	3.04 14.32	2.59 98.74
4	3.69 4.37	3.54 4.60	3.37 4.92	3.17 5.42	2.92 6.40	2.65 8.28	2.30 16.23
3	2.83 3.20	2.74 3.32	2.64 3.48	2.52 3.72	2.35 4.15	2.18 4.86	1.94 6.79
2.5	2.38 2.64	2.32 2.72	2.25 2.82	2.16 2.98	2.04 3.24	1.91 3.65	1.72 4.63
2	1.92 2.08	1.88 2.13	1.84 2.20	1.78 2.29	1.70 2.44	1.61 2.66	1.48 3.14
1.7	1.64 1.76	1.62 1.80	1.58 1.84	1.54 1.90	1.48 2.00	1.41 2.15	1.31 2.44
1.5	1.46 1.55	1.43 1.57	1.41 1.61	1.37 1.65	1.33 1.73	1.27 1.83	1.19 2.04
1.3	1.27 1.33	1.25 1.35	1.23 1.38	1.21 1.41	1.17 1.46	1.13 1.54	1.07 1.68
1.2	1.17 1.23	1.16 1.24	1.14 1.26	1.12 1.29	1.09 1.34	1.05 1.40	0.999 1.51
1.1	1.08 1.12	1.07 1.14	1.05 1.15	1.03 1.18	1.01 1.21	0.977 1.26	0.930 1.35
1	0.982 1.02	0.972 1.03	0.961 1.04	0.946 1.06	0.924 1.09	0.899 1.13	0.860 1.20
0.9	0.886 0.915	0.878 0.924	0.869 0.934	0.857 0.948	0.839 0.971	0.819 1.00	0.787 1.06
0.8	0.789 0.811	0.783 0.818	0.776 0.826	0.766 0.837	0.753 0.854	0.737 0.876	0.711 0.916
0.7	0.692 0.708	0.689 0.712	0.684 0.717	0.677 0.725	0.668 0.736	0.657 0.750	0.639 0.775
0.6	0.594 0.606	0.591 0.609	0.587 0.613	0.582 0.619	0.575 0.627	0.566 0.638	0.552 0.658
0.5	0.496 0.504	0.494 0.506	0.492 0.509	0.489 0.512	0.484 0.517	0.478 0.524	0.469 0.536

露出について

露出は大まかにいって、晴曇、季節、一日の内の時間、光源からの距離、フィルムの感光度などによって決めますが、最近の白黒フィルムは非常に露出の寛容度が広がっていますから、普通の被写体なら経験によって大体決められます。しかし、常に正確な露出を知るには、ミノルタSRメーター2の使用をおすすめいたします。カラー撮影の場合には特に必要です

■絞りとシャッター速度との関係

ミノルタSRは下表のような絞り・シャッター速度となっており、お互いに隣りの目盛の2倍、 $\frac{1}{2}$ の露光量となる関係になっています。従って下表の絞りとシャッター速度との組み合わせはすべて同一露光量になります



絞(F:)	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16				
シャッター速度(秒)	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	B



ミノルタ SR メーター 2 の使い方



ミノルタ SR メーター 2 は強力な CdS を採用した高性能なメーターで特に SR 用につくられたものです。メーターの作動範囲は被写体の明るさ（輝度） $0.56 \sim 37000 \text{cd/m}^2$ の広範囲ですから相当暗いランプの光から とても明かるい日中の戸外まですべての範囲をほとんどカバーします。

作動範囲を ライトバリューに換算しますと EV 2～18 に相当します（LV 2=F2 1秒）

さらにメーターの受光角が従来のもより狭く大体使用レンズの画角に近似していますのでより正確な露出の測定ができます。

このように 理想的な各性能をそなえているのが SR メーター 2 です。

SR-1 には SR メーターがとりつけられるためのメーター取り付けシューがあり、SR メーター 2 をお使いになるとシャッター速度に連動します。

メーターの取り付け

カメラ本体の前面にあるメーター取り付けシューにメーターの取り付けピンを差し込みます。このときメーターの速度リングを左右に回すと、メーター底部のカップラーがカメラ本体のシャッターダイヤル上にある連動ピンと結合します

メーターの速度とカメラの速度が合ってなくても、メーターの速度リングを左右に動かすとカメラに結合されます

注) ○メーター速度ダイヤル B \rightarrow 500の移動は数字のない部分では動かさせません

○SR-1にご使用の際はシャッター速度が $\frac{1}{500}$ 秒までですから $\frac{1}{1000}$ 秒で使わないよう注意してください

ミノルタ SR メーター 2 の名称

シャッター速度ダイヤル

フィルム感度指数目盛

絞りダイヤル

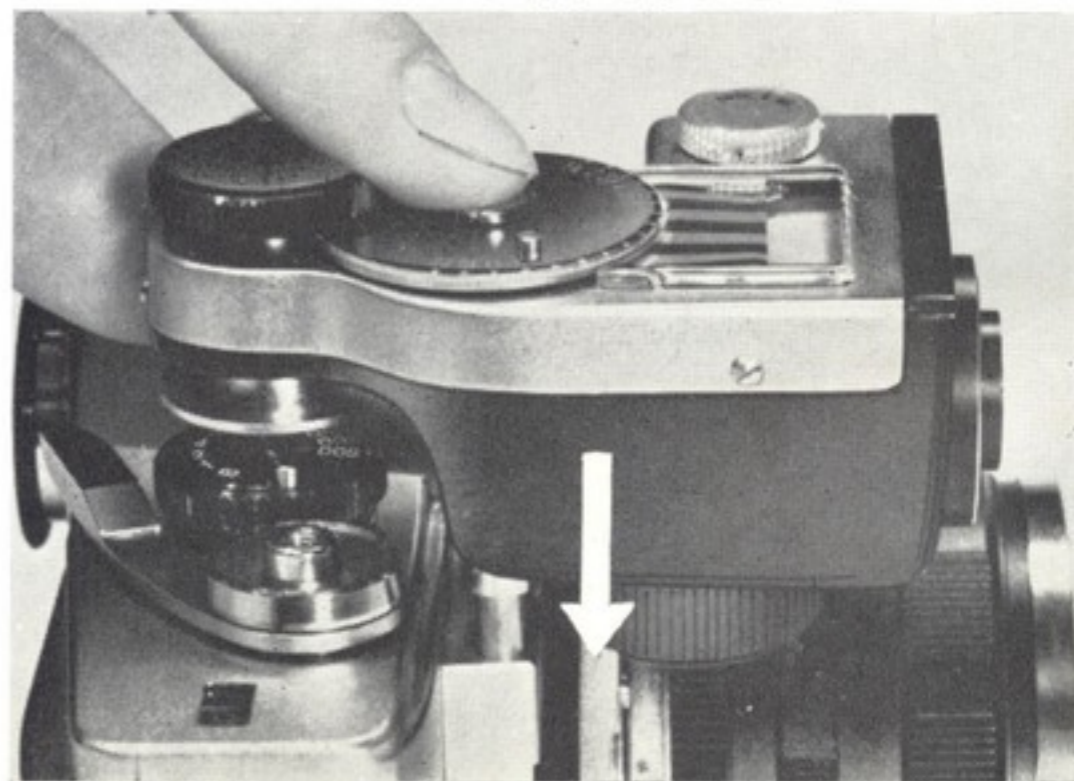
ガイドライン

感度切替ダイヤル

受光窓



SR メーターを取り付けるところ



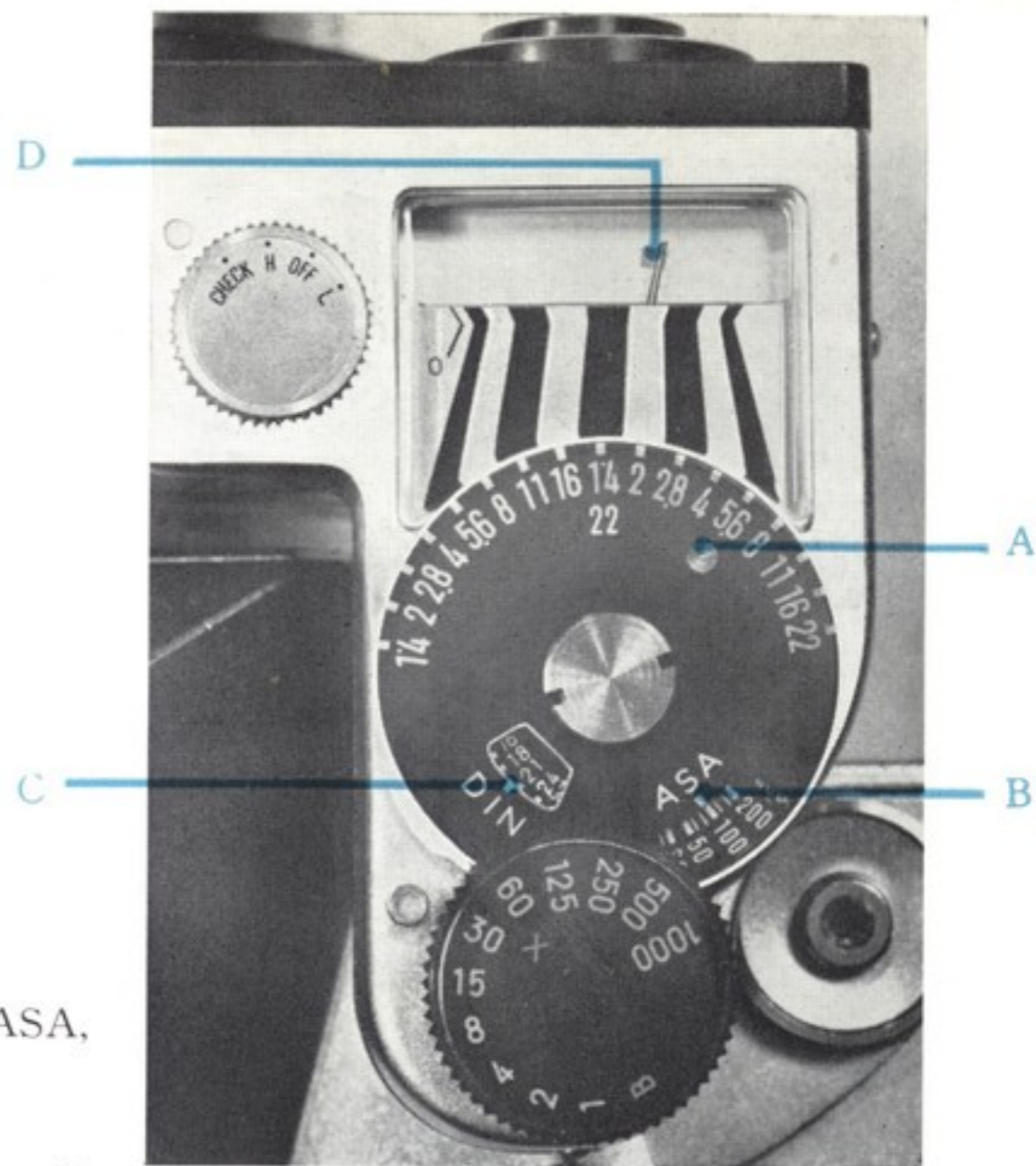


フィルム感度の合わせ方

フィルムの露光指数をメーターの露光指数目盛(ASA, DIN) に合わせます

メーター上の絞りダイヤルにあるピン①を回し、窓②で ASA 感度を合わせます。③は DIN の表示窓
(写真は ASA 100 の場合)

④はチェックマークに指針があるとき……P-26を参照

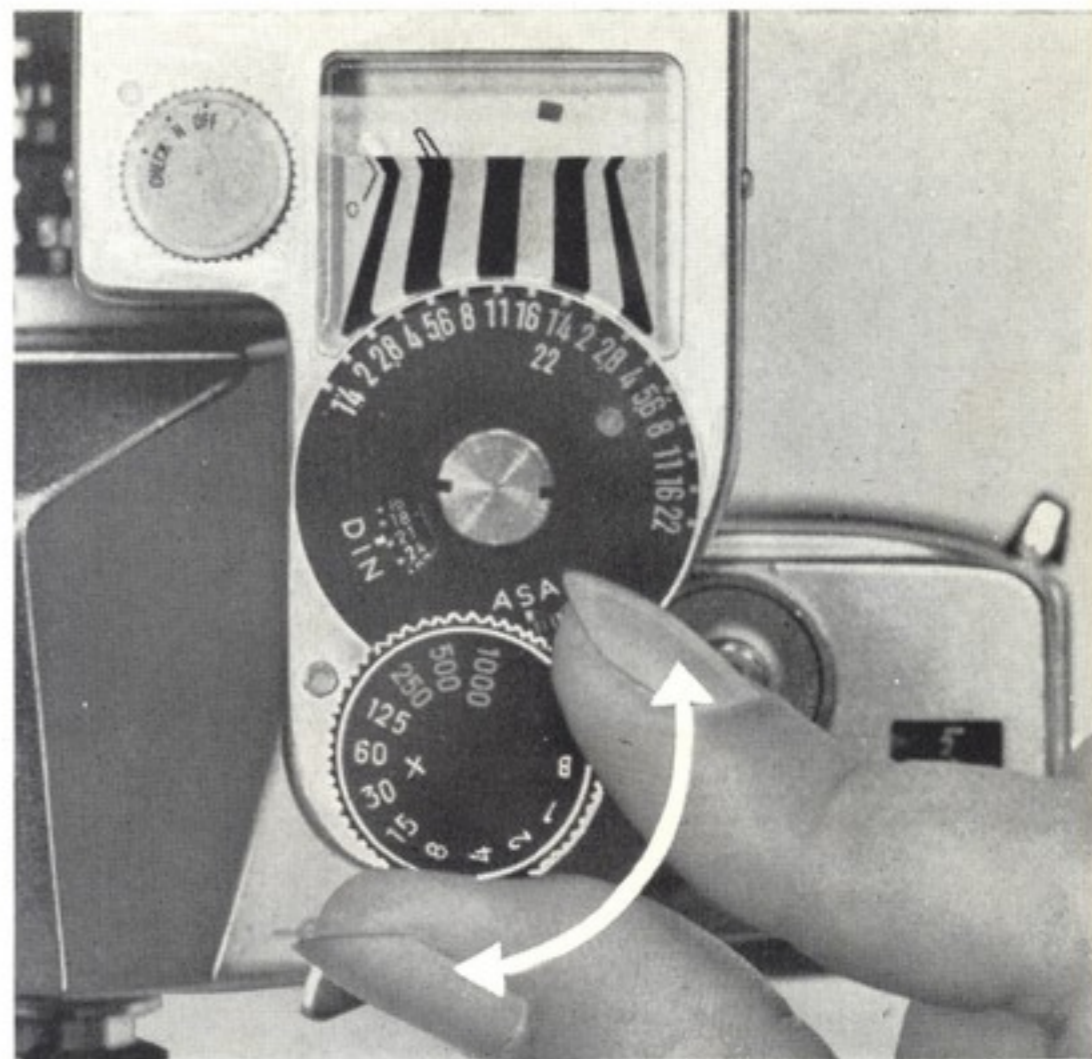




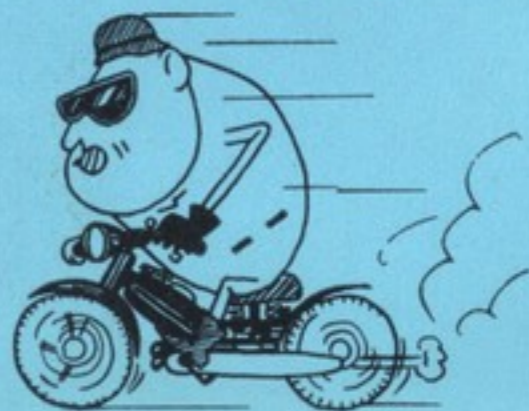
シャッター速度を先に決めるとき…

メーターの感度切替ダイヤルをHに合わせ、シャッター速度ダイヤルを回わして希望する速度目盛を赤色◎印に合わせた時、メーターの針が示す絞り値をよみとり、レンズの絞り値を調節すれば適正露出がえられます

一般の野外撮影ですとSS級のフィルムではシャッター速度を $\frac{1}{125}$ 秒にしておけば充分まにあいます。また明るい室内では $\frac{1}{30}$ 秒に、動体はなるべく速いシャッター速度にしてください（次頁の下に作例を示します）



はやい動体は 1/500





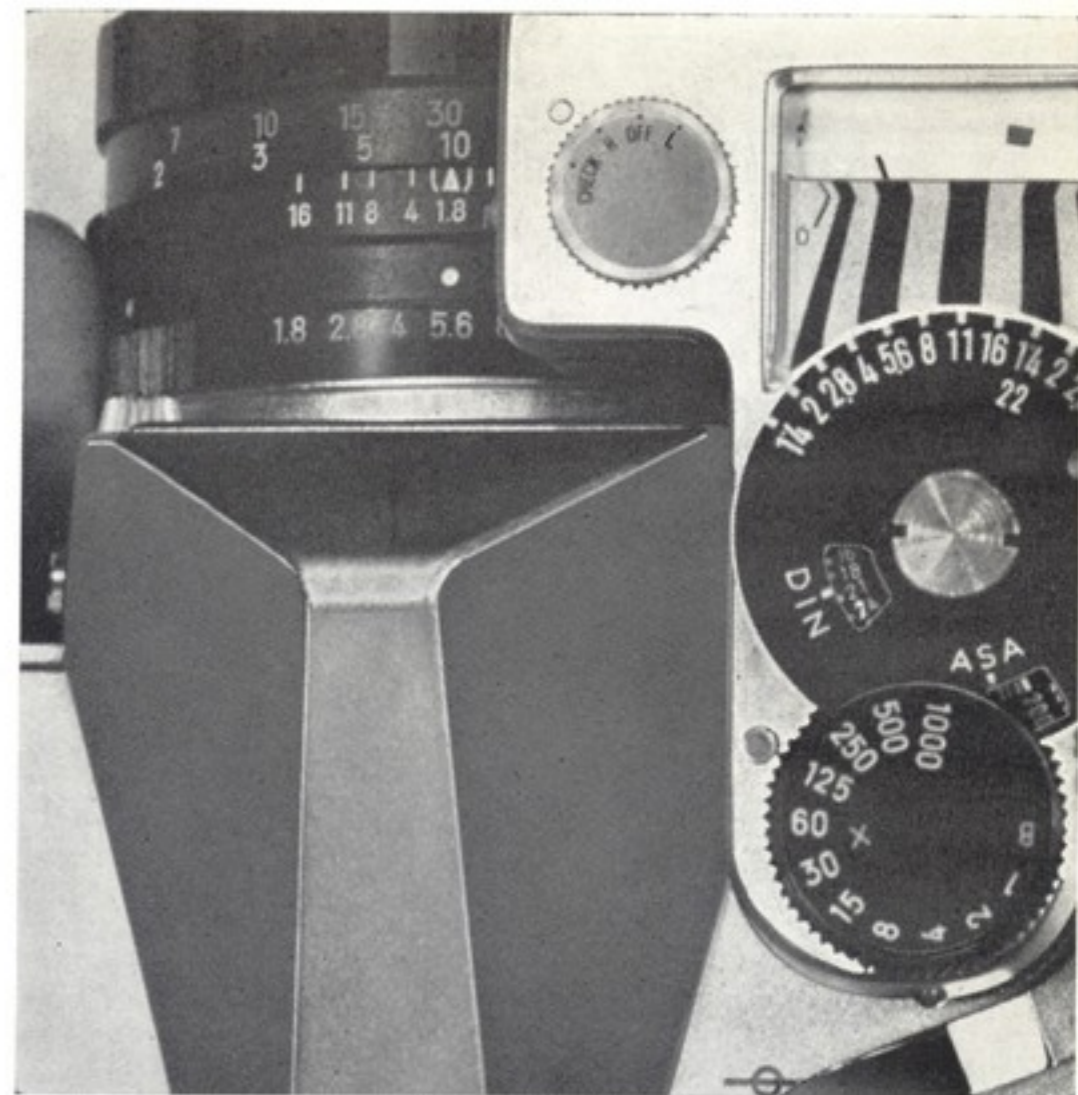
絞りを先に決めるとき

メーターのシャッターダイヤルを回してあらかじめセットしておいたレンズの絞り数値に、メーターの指針を合わせれば、シャッター軸が連動しているので自動的に露出が決められます

集合人物・建築写真その他焦点深度を深くするときは小絞りにします

○絞り値の読みとりはガイドラインに沿って読みとります

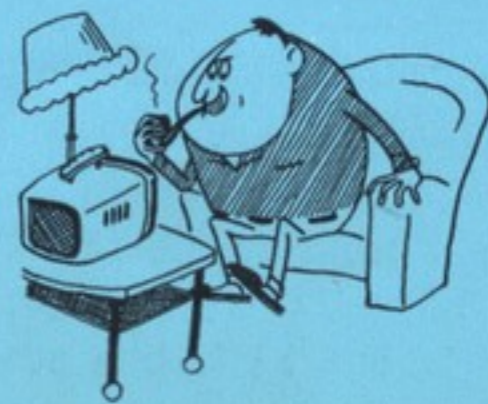
○シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より遅い時は三脚をご使用ください



動体は 1/250



明るい室内は 1/30





切替ダイヤルの扱い方

メーターの切替ダイヤルは写真のように CHECK, H, OFF, L の4つの目盛です

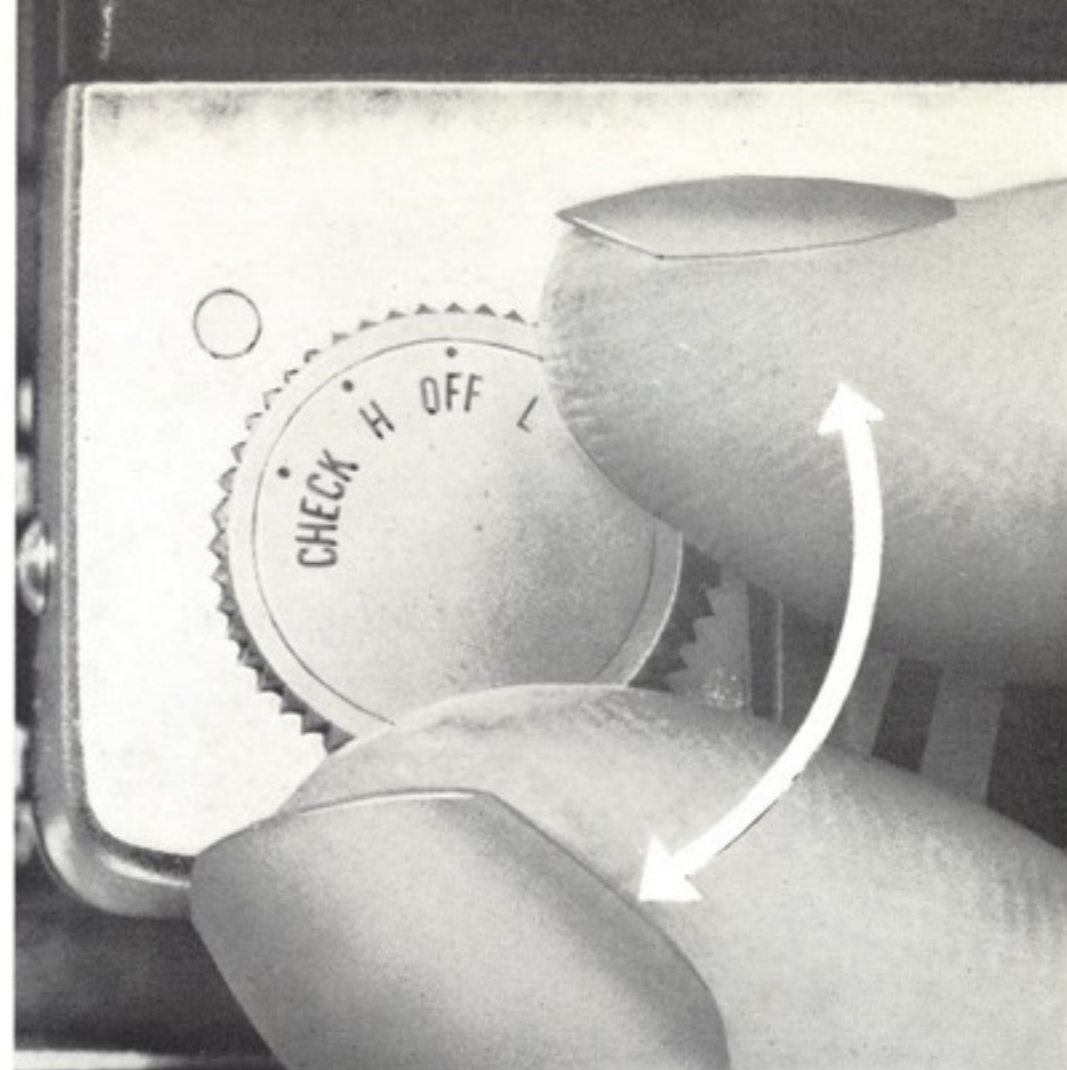


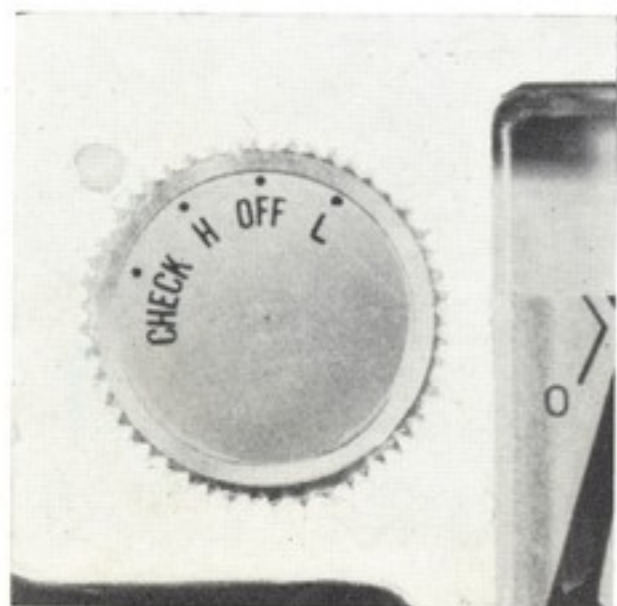
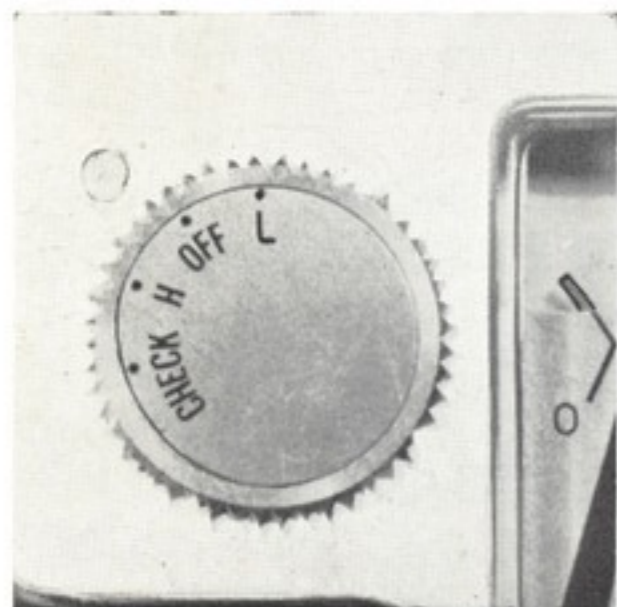
このメーターは CdS を採用しており 水銀電池を電源としています
そこで水銀電池の消耗を調べるとき切替ダイヤルをCHECKに合わせます。このときメーターの指針が指針窓中のチェックマークの中にあると この電池の性能が十分であることを示します もし指針がチェックマーク以外にふれた時は水銀電池の性能不良を示します
(P-23の写真⑩参照)

このようなときは新しい水銀電池にとりかえてください

(水銀電池の寿命は使用状態にもよりますが大体2年です)

メーターをご使用になる前に電池の性能をテストしてからお使いください (電池のテストは時々でよいのです)





OFF

ダイヤルを OFF にすると水銀電池からの電流が切れますからメーターをご使用にならない時は OFF にしておいてください

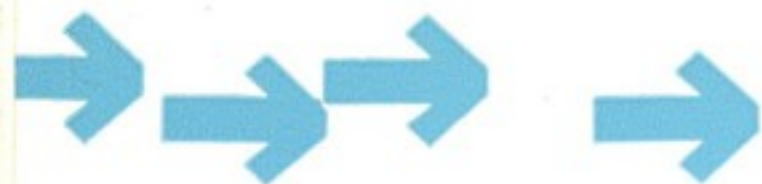


感度の切替

HとL

一般の被写体では切替ダイヤルをHにしてご使用ください。もし被写体が暗くてメーターの指針が働かないような場所では切替ダイヤルをLに合わせて測定してください。このときは橙色の絞り目盛をよみます

感度を切替えたときメーター指針のさす絞り値がHとLで一絞り異るときがあります。このような時は低い方の値をよんでください



測定の方法



人物の場合

人物におけるカメラ位置での測定では人物と背景の総合した明るさを測るので、背景の明暗によって人物の露出が変化します。とくに雪中や、明るい建物空をバックにしたとき、人物が露出不足になり易いものです。このような時はできるだけ主体に近づけて測定してください



逆光の人物

逆光の時は露出計の受光面に直射光が入射しないよう注意して測定しなければなりません。どうしても受光面に入射するよう時は、手などで覆いをして直射光の入らないように測り、その値の約3倍を与えてもよろしい。この方法は人物に限らず、近ずいて測れない被写体にも応用できます

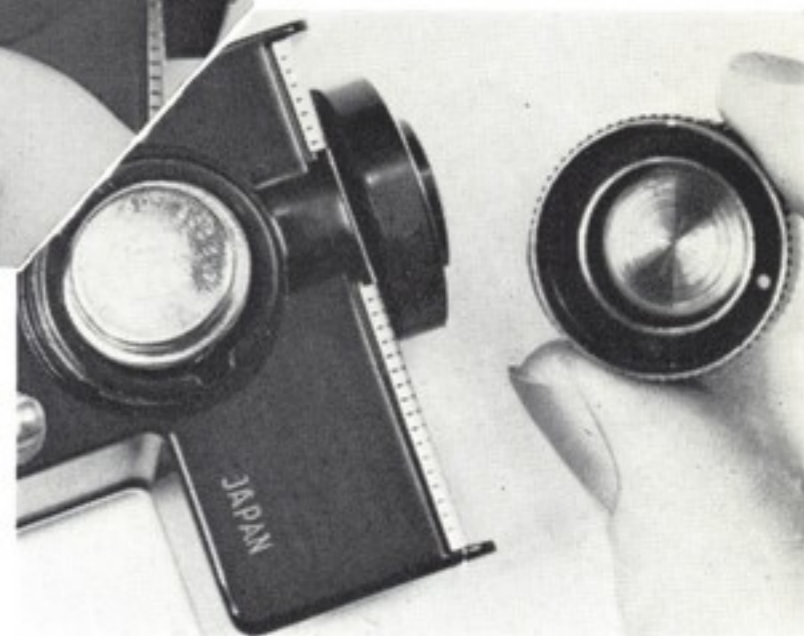
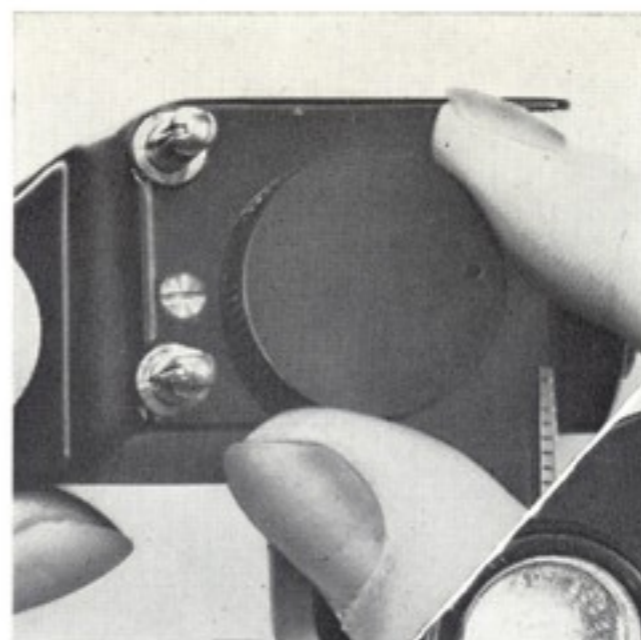




風景の場合

風景は人物のように近づけないのでカメラの位置から測ります。この時は空からの直射光が直接露出計の受光面に入射しないよう注意します。もし空からの直射光が入射すると露出不足となります

非常に広い風景や、風景全体を写す時は撮影位置から比較的近い地上に受光面を向けて測ります。またコントラストの強い逆光の風景や高くて狭いビル街では指示値の2倍の露出を与えるようにします。特に雪景や非常に明るい被写体の中に、黒い被写体のある時は、暗い部分が適正露出になるよう露出計指示値の約2倍を与えるようにしてください



水銀電池の交換

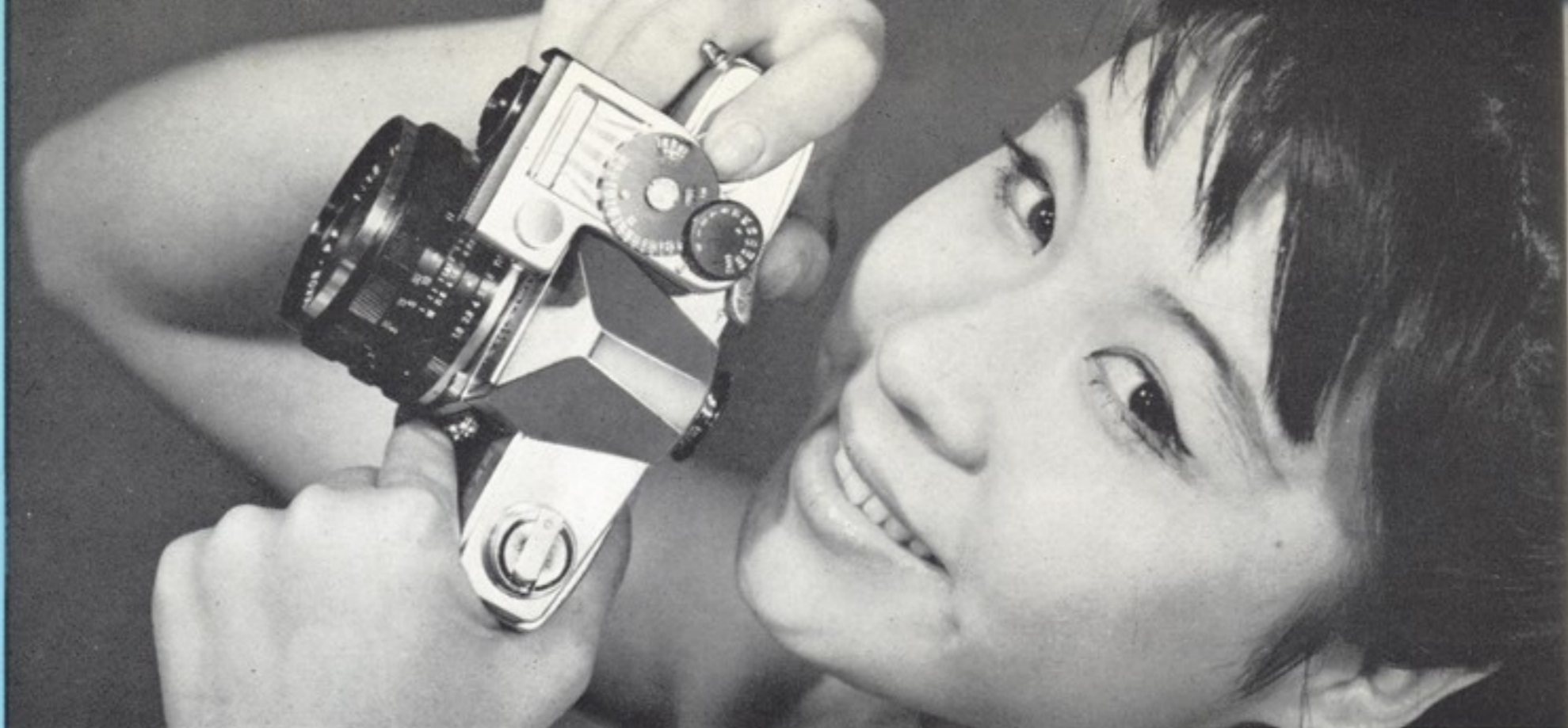
水銀電池をとり替えるには SR メーター下部の電池ケースの蓋を時計の針と反対に回すと蓋が外れ中の電池がとり出せます。そしてあたらしい水銀電池（ナショナル M-D 型）の+側を上にして（蓋の+側と合うようにして）入れ替えてください

この時電池の極を間違えないよう注意してください

カメラの保存

カメラは湿気の多いところや塩気のあるところに放置してはいけません。特に零下10°以下のつめたい場所や40°以上のあついところではシャッターに悪影響を及ぼしますから、このような場所で長い間放置しないように注意しましょう

レンズの表面がゴミなどでよごれたときは、先ずゴム球のブローアードゴミを吹きとばしてから息をふきかけてよく洗った木綿のキレ又はシリコンクロスでやわらかくふいてください



焦点調節と構図の決め方

焦点調節はフィルム巻き上げ前後いずれでもよろしい
たゞし、絞り効果の検討は絞りボタンで行ないます

ファインダーをのぞきながら、焦点調節リングを左右いずれかへ回すと、ポケている被写体（写そうとするもの）が鮮鋭になります最も鮮鋭なところでシャッターを切れば、フィルム面にも鮮鋭に写ります。ミノルタSRは焦点面レンズの下に集光作用の強いフレネルレンズが内蔵されていますから、ファインダー視野は周辺部まで一様に鮮明に見えます。但し中央部は焦点調節に便利なよう平面にしてあります

前述のように、一眼レフは撮影レンズの画像そのものをファインダーを通して見るため、どんなに接近して写しても、パララックス、つまりファインダーで見える範囲と実際に写る範囲との誤差は起りません。その上、被写体の遠近感や背景との関係、さらにカラー撮影の場合の色彩効果まで写る通りにわかります。

なお、絞りの変化によるピントの合う奥行（被写界深度）や、背景や前景のボケ具合（カラー白黒ともに）などの検討は、前頁の自動絞りボタンを下におしきげて見ればよくわかります。

こうして、露出と絞り効果とを考慮の上、適当な絞りにセットしてから撮影してください。



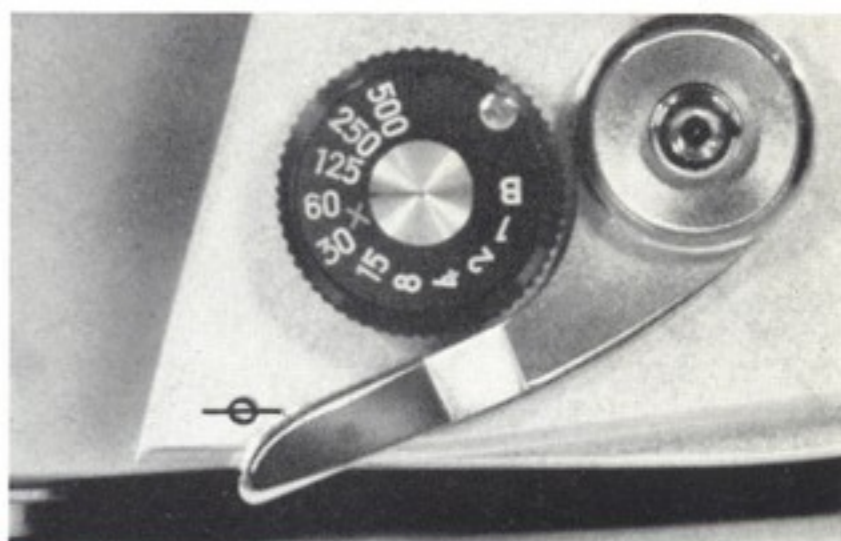
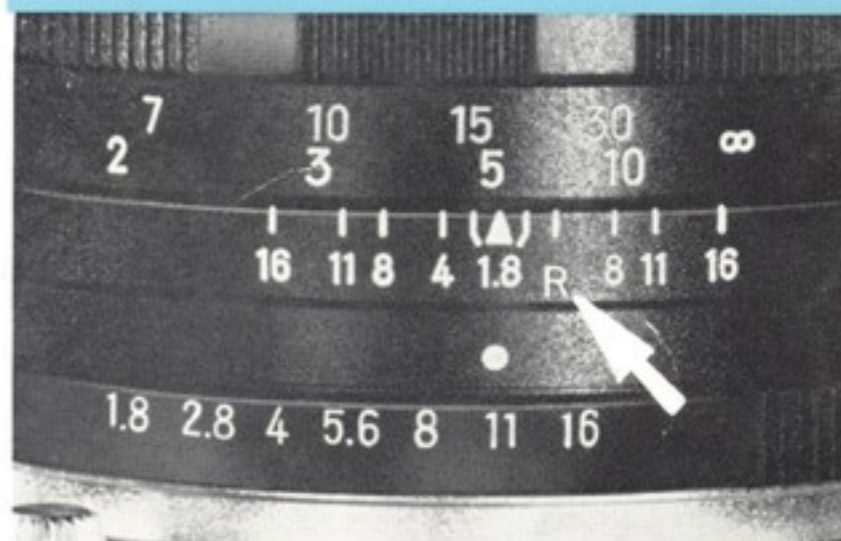
ファインダーの覗き窓の黒いリングは時計の針と反対の方向に回すとはずれます。

カメラの接眼リングの内側はバヨネットとねじの兼用式になっており、ここにバヨネット式の新しいアングルファインダーやマグニファイヤーが迅速確実に取り付けられます。また各種老眼用アタッチメントリングが取り付けられます。

★ファインダー接眼リングを取り外したときは粉失しないようご注意ください。

赤外線指標

赤外線フィルムを使用するときは、赤外線は波長が長いので、まず被写体に焦点を合わせてから▲印の示す距離目盛をよみとって、その目盛を赤字のRの位置までずらせてください。赤外線撮影をするときは赤フィルターを併用します。



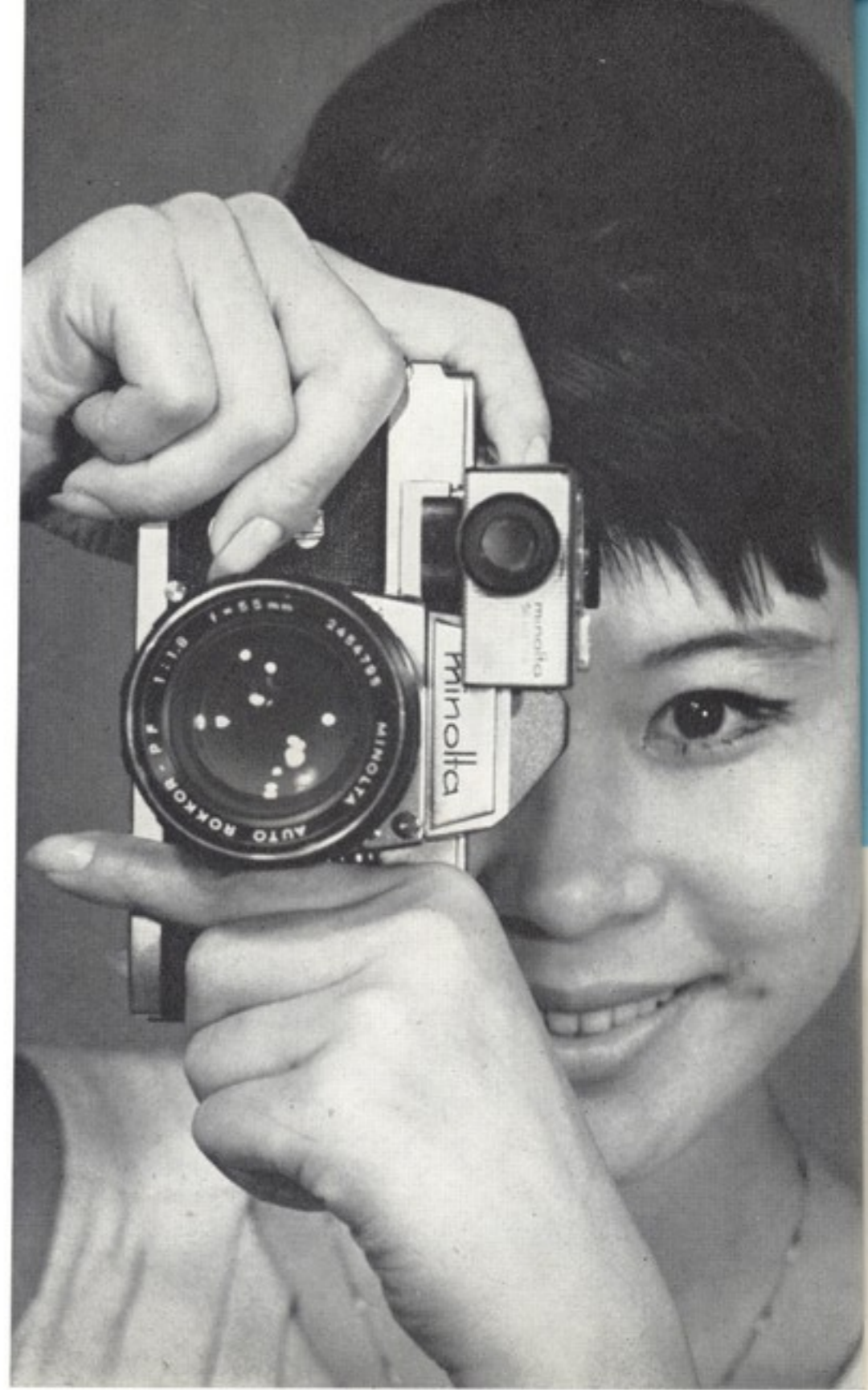
カメラ上カバーの赤い⊖印はフィルム面の位置を示したものです。カメラから被写体までの距離とは、厳密にいうとレンズからではなく、フィルム面からの距離をいいます。



カメラの構え方 シャッターの切り方

カメラの持ち方は大きくわけて、縦位置と横位置の二通りがあります

カメラが動かないようにしっかりと顔にあて、そしてシャッターボタンを静かに押ししてください。カメラが動くときゃかくの写真がブレてしまいます。なお、レバー巻き上げ式カメラは横、縦位置ともにファインダーを右の眼でのぞく方が、巻き上げのときレバーが顔につかえずに便利です。二重露出防止になっていますから、一度シャッターを切れば次のフィルムを完全に巻き上げなければシャッターは切れません。（またシャッターを切らなければ次のフィルムが巻けないことはもちろんです）



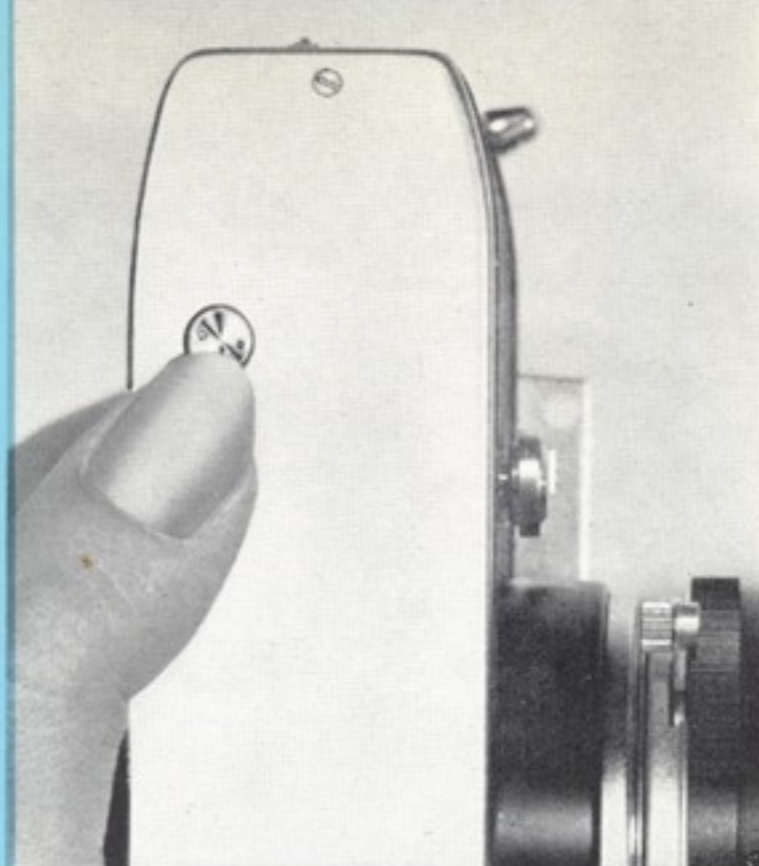


▶ご注意◀

- ◆ $\frac{1}{30}$ 秒より遅いシャッター速度で写すときは手持ち撮影ではカメラブレを起す恐れがありますから、三脚をお使いください。もし三脚がなければ、適当な台の上へのせるか、またはそわせるかしてもよいのです
三脚などを使用する場合は、ケーブルリリースを使った方がよいのです
- ◆ ケーブルリリースはシャッターボタンの上にネジ込んでお使いください
- ◆ 1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のように長いシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから次のフィルムを巻き上げるようにしてください。特に、フィルムを入れずに空写しをするときに注意してください

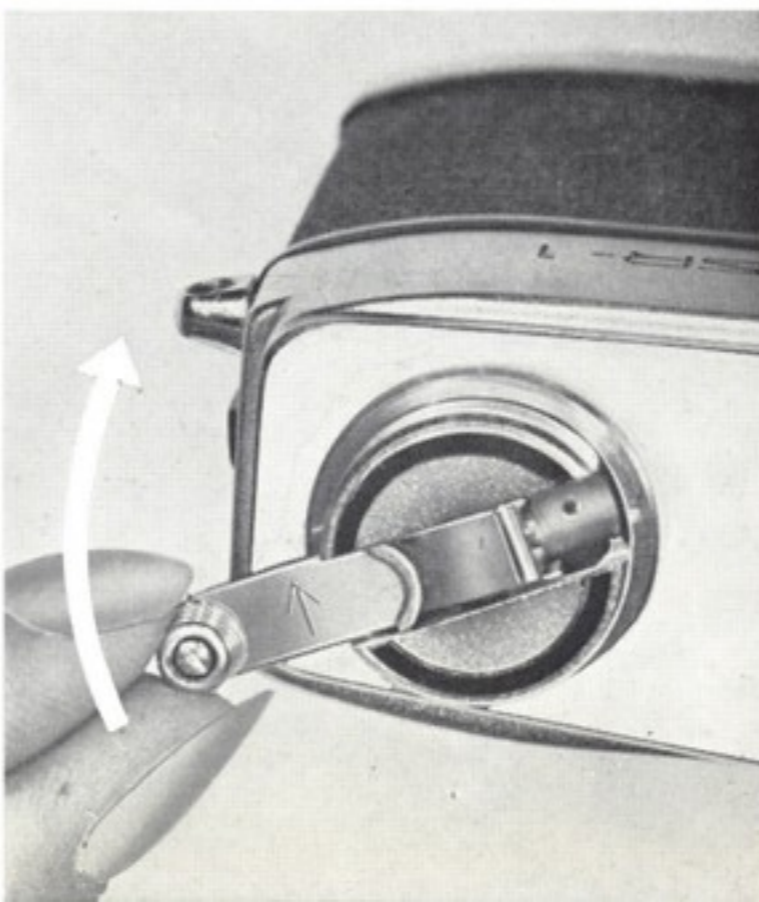
撮影が終わったとき

フィルムを全部写し終ると、巻き上げレバーはそれ以上回わせなくなります。このとき無理にレバーを回すと、フィルムがパトローネの軸からはずれて巻き戻しができなくなりますから、フィルムが終りに近づいたら巻き上げにご注意ください

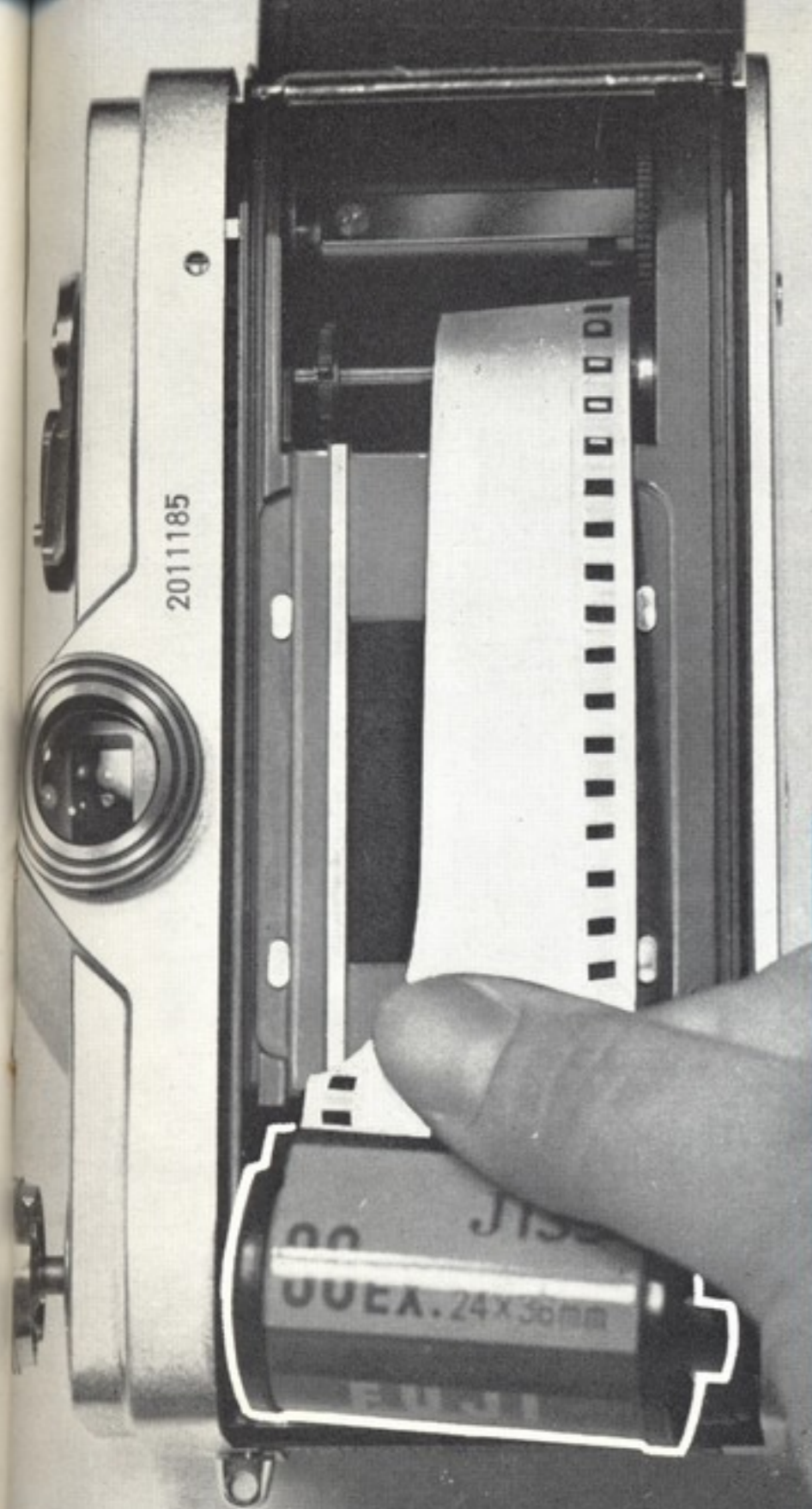


1. カメラの底の巻き戻し用押しボタンを押し込みます。(このボタンは指を離しても押し込まれた状態のまま止まります)もし指を離したときボタンが元通り出てくる場合は、ボタンを押ししたまま巻き上げレバーを少し回してください

35mm フィルムは裸フィルムですからパトローネを取り出す前に、必ずフィルムを元のパトローネの中へ巻き戻さなければなりません



2. 巻き戻しクランクを起して矢印の方向に回すと、フィルムは元のパトローネの中へ巻き戻されていきます。最後にフィルムが巻取軸のクリップから外れて、急に巻き戻しが軽くなるのが手ごたえでわかりますから、そこで巻き戻しを止めます



3.そこで巻き戻しノブを十分引き出して裏蓋を開け、フィルムを取り出します

図のようにパトローネのテレンプの右端とフィルムとを一緒に持ってカメラのフィルム受軸からパトローネを外すようにして、やゝ右側から先に取り出します

★フィルムの出し入れのときに、シャッター幕に強く触れないようにご注意ください

★フィルムの出し入れはなるべく日陰で行ってください

フィルムは全部パトローネの中へ巻き込んでしまわない方がよいのです（パトローネによってはフィルムの出口から多少光がはいることもありますから）

巻き戻しをする場合、巻き戻しクランクのついたノブを引き上げてはいけません。パトローネの軸からはずれてしまいますし、誤って強く引き上げると、裏ふたが開きフィルムに感光します



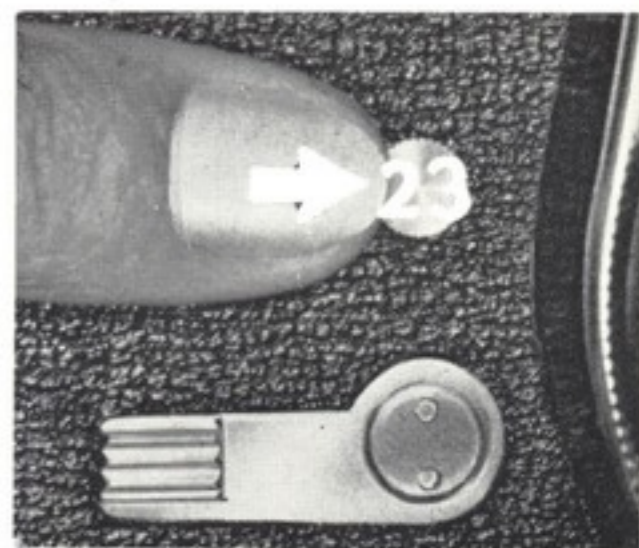
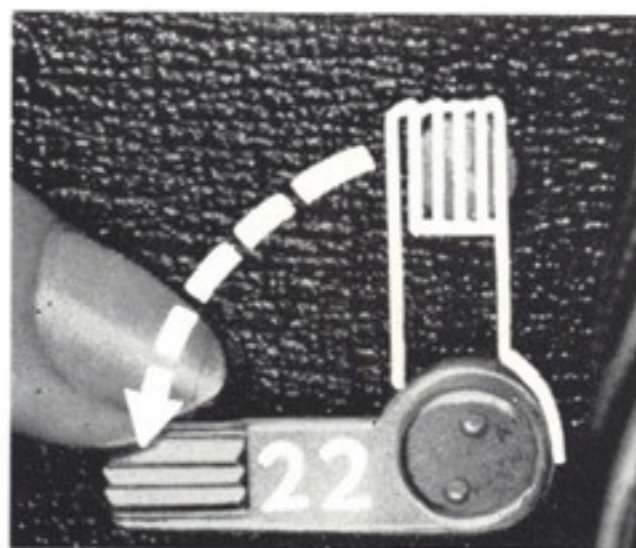
セルフタイマーの使い方

セルフタイマーは自分も一しよに画面に入りたい記念撮影や、一人旅には絶対に必要な装置です

また、スローシャッターで手持撮影をする場合にも短いセルフタイマーを利用してシャッターを切ると指でシャッターボタンを押すよりずっとカメラブレを少なくすることができます

セルフタイマーをかけて後、始動ボタンのかわりにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーは作動せずに直ちにシャッターが切れますから注意してください

☆セルフタイマーのチャージはフィルム巻き上げの前後いずれでもさしつかえありませんが、ご使用の時はフィルム巻き上げレバーを巻き上げてからにしてください



1. セルフタイマーのレバー②②を倒すと、セルフタイマーがチャージされます
レバーを倒す角度によって作動時間を自由に調節することができます。但し約45度以上レバーをチャージしないとシャッターは切れません

2. セルフタイマー始動ボタン②③を説明図の方向に少し押し、セルフタイマーが作動を始め、数秒後に自動的にシャッターが切れます。(勿論、フィルムを巻いてなければシャッターは切れません)



フラッシュ撮影について

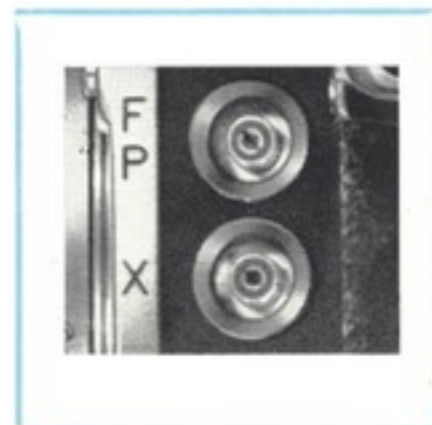
夜間や、うす暗い所でのスナップや室内撮影などには、閃光球かスピードライトを使ってフラッシュ撮影をしてください。また、空、海、窓外を背景とした人物撮影や逆光線撮影などの場合に、陰影部の補助ライトとして使うこともできます。閃光球またはスピードライト（ストロボ）がシャッター幕の開くのと同調発光します
カメラのレンズ台の向って右側面に FP（FP閃光球用）と X（スピードライト用）両接点の2つのターミナルがあります

閃光球を使う場合



閃光球はフォーカルプレーンシャッター用の FP 級のものをお使いください。発光器のプラグを FP ターミナルへ差し込みますと、1秒から $\frac{1}{500}$ 秒までどのシャッター速度でも正確に同調発光しますが、ある程度明るい場所での動体撮影には $\frac{1}{60}$ 秒以上の高速度をお使いください
その他の閃光球をご使用になるときは次頁のフラッシュ組合わせ表を参考にしてください

スピードライトを使う場合



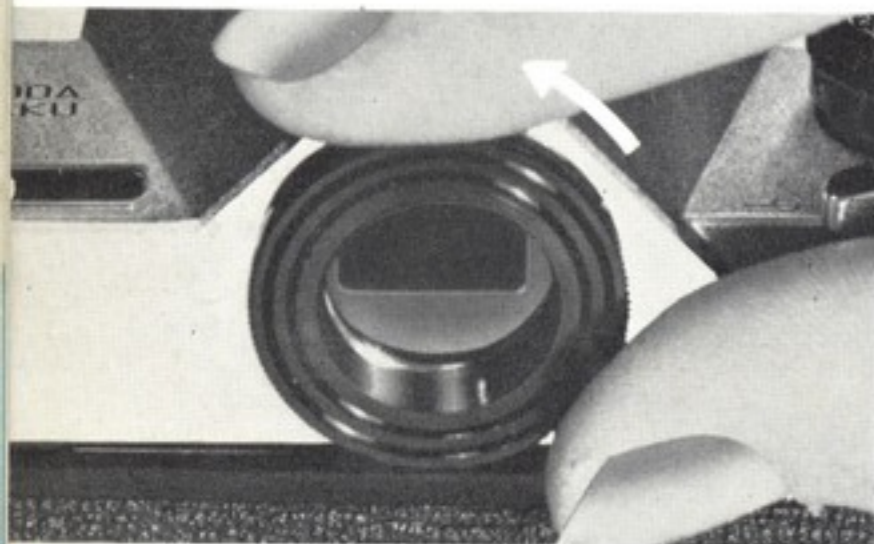
スピードライト（ストロボ）を使うときは、シャッター速度ダイヤルの赤い X マーク（約 $\frac{1}{50}$ 秒）に合わせ、X ターミナルを使用します。



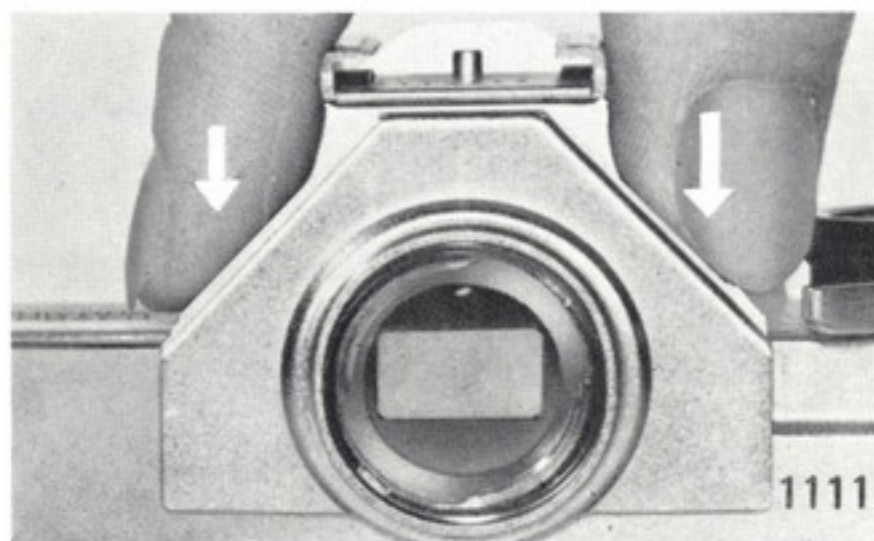
フラッシュ撮影

発光器の取り付け方

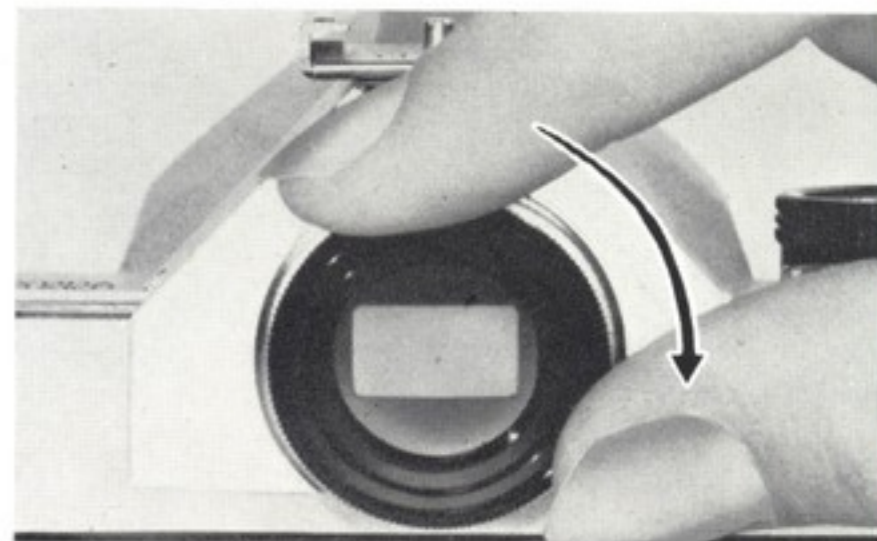
発光器の本体はカメラから離しても使用できますが、カメラに取りつけて使用したいときは、アクセサリクリップ（付属品として発売しています）をご利用ください。その場合は次のようにして取り付けます



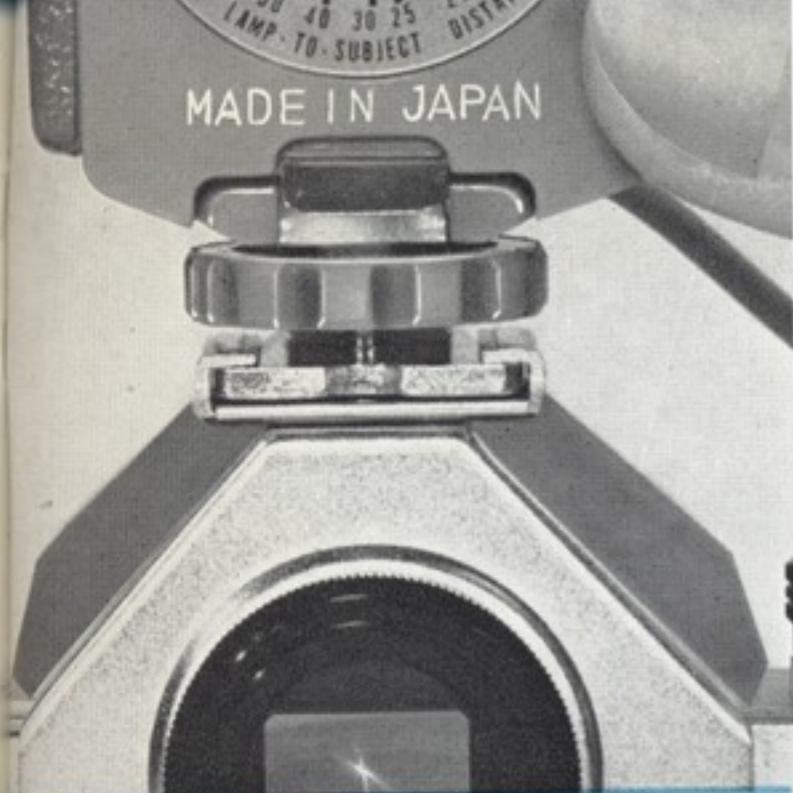
A) ファインダーののぞき窓の黒いリングを時計の針と反対方向に回わして取りはずします



B) アクセサリクリップを取りつけます



C) リングを元通りねじ込んでしめつけます



D) 発光器の足をアクセサリークリップに後方から差し込み発光器のねじで固定します

コードの取り付け

発光器のコードの先についているプラグをカメラのシンクロナミナルに差し込みます。このときFP級の閃光球を使うときはFPと書いてある上側のターミナルに、スピードライト（ストロボ）を使うときはXと書いてある下側のターミナルに差し込んでください

フラッシュ撮影組合せ表

(斜線の速度が適当)

接点	シャッター速度級	シャッター速度秒												
		B	1秒	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	X	1/60	1/125	1/250	1/500	
FP接点	F P 球													
X接点	F 球													
	M 球													
	ストロボ													

フラッシュ露出の決め方

- 各種閃光球の説明書には、その光量に応じてガイドナンバーがあり、各種感光度のフィルムと種々のシャッター速度に応じた適正絞りを決めるための指数が一覧表で示してあります

$$\text{被写体距離} \times \text{絞値} = \text{ガイドナンバー}$$

上記の関係式から、ガイドナンバーを被写体距離（光源まで）で割った値が適正絞りとなります

- スピードライトの場合は、露出にシャッター速度を考慮する必要がありませんから、直接各場合の適正絞を示してあります
- 明るい所で補助ライトとして使用する時は、主光線の露出に従います
- ★一眼レフはミラーがはね上っている瞬間にフラッシュが発光しますから、ファインダー視野は真っ暗で、発光しなかったように感じますからご注意ください
ベースレスの小型フラッシュバルブは光量が少ないのでなるべく1/15以下のスローで用いてください



レンズ交換はこうして



ミノルタ SR は $\frac{1}{8}$ 回転のバヨネットによって、迅速確実にレンズ交換ができますから、忙しいスナップの時や、長い望遠レンズや蛇腹装置を使う時、顕微鏡撮影の時などに非常に便利です

フィルム巻き上げ前後レンズ交換はいずれでもさしつかえありません。交換したレンズの絞は自動的に開放になっています



レンズを取りはずすにはレンズ交換用ボタン②⑥を図のように下方に少し押しながら、レンズ鏡胴の基部を持って時計の針と反対の方向に止まるところまで ($\frac{1}{8}$ 回転) 回すとレンズがはずれます

☆専用レンズ以外の交換レンズを使用する時には、各種アダプターが用意されています



レンズを取りつけるにはレンズ鏡胴の赤点を、カメラの前カバーの赤点に向けてレンズをカメラの本体に差し込んで、カメラのレンズ座金とレンズとをピッタリと合わせ、次にレンズ鏡胴を時計の針の方向に $\frac{1}{8}$ 回転するとカチリと止まります

★従来のレンズで完全自動絞り式 (絞りボタン付) の交換レンズは何れも作動します





一台で数台分の働きに活用できる豊富なSR用アクセサリ

ミノルタSRは普通撮影はもとより近接・複写、顕微鏡写真・超望遠撮影など多方面の分野に使う便利なアクセサリを完備しています。これら豊富なアクセサリを用いることにより1台のカメラが数台分の撮影範囲に活用され、ますますSRの万能性を発揮することをお約束します



SR用ロックール交換レンズ



SRはどんなレンズを使ってもファインダーで見たままの状態が100%のフルサイズに撮影されますから、レンズ交換に最も適したカメラです。他社にない自社製ガラスの優れた硝種と、最新の光学理論によって生れたすばらしいロックールレンズ群を次の通り用意しています

完全自動絞りロックールレンズ

(撮影前にセットされた絞りに自動的に絞られます)

- ② F2.8/35ミリ 広角レンズ
- ③ F1.8/55ミリ, F1.4/58ミリ標準レンズ
- ④ F3.5/100ミリ 望遠レンズ
- ⑤ F2/100ミリ "
- ⑦ F2.8/135ミリ "
- ⑨ F3.5/200ミリ "

手動絞りロックールレンズ

- ① F4/35ミリ 広角レンズ
- ⑥ F4/100ミリ 望遠レンズ
- ⑧ F4/135ミリ "
- ⑩ F4.5/300ミリ "
- ⑪ F5.6/600ミリ "



ロ ッ コ ー ル 交 換 レ ン ズ に よ る 写 角 の 変 化

35 ^{m/m}





55 $\frac{m}{m}$



100 $\frac{m}{m}$



135 $\frac{m}{m}$



200 $\frac{m}{m}$



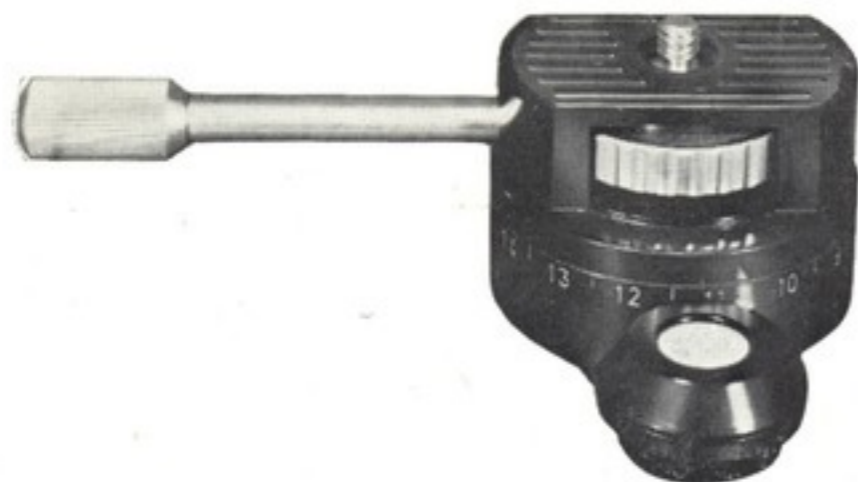
300 $\frac{m}{m}$



600 $\frac{m}{m}$

(▲印のフードはケース付で別に販売しています。)

名 称	口径比 焦点距離	画 角	フィルタ ーネジ径 (mm)	最 短 距 離	正 価			用 途
					レンズ	フ ード	ケース	
1 W ロッコール QE	4/35	64°	55	40cm	¥9,400	▲ ¥1,500	¥ 400	ひきの少ない処での広範囲の撮影や、遠近感をきかして主題を強調する時、深度を利用したスナップに好適
2 オート W ロッコール HG	2.8/35	64°	55	25cm	23,900	▲ 1,500	600	
3 オート ロッコール PF "	1.8/55	43°	55	50cm	15,000	▲ 900	600	最も広い分野の撮影に適した大口徑標準レンズ
	1.4/58	41°	55	60cm	21,000	▲ 900	600	
4 ロッコール TC	4/100	24°	46	120cm	8,350	450	800	ポートレート、戸外スポーツ、山岳など、気軽に望遠撮影の出来る軽量なレンズ
5 オート テレロッコール QF	3.5/100	24°	55	120cm	16,400	700	900	
6 オート テレロッコール PF	2/100	24°	62	120cm	26,200	800	1,000	
7 ロッコール TC	4/135	18°	46	150cm	11,200	500	800	近寄れぬ遠方のものや舞台人物のアップ、野外スポーツなどに好適
8 オート テレロッコール PG	2.8/135	18°	55	150cm	26,400	700	900	
9 テレロッコール QF	3.5/200	12°	67	250cm	31,300	1,200	1,500	肉眼では分らぬような遠方の目的物を写すに好適、報道、生態の撮影に望遠効果を発揮
10 テレロッコール TD	4.5/300	8°	77	450cm	42,300	1,500	2,200	
11 テレロッコール TD	5.6/600	4°	126	1000cm	116,000	4,000	7,000	



SR用パノラマヘッド

ミノルタ SR にこのパノラマヘッドを用いますと広々とした風景や広い範囲の被写体を一枚の写真に入れることができます

このパノラマヘッドに一枚撮影するごとに少しずつカメラの角度を変えて撮影することができます各種のロッコールレンズを共通に使うことができます

そして360°まわりの被写体を全部撮影することが可能です。使用者の希望する枚数だけ撮影しその後写真をつなぎ合わせてすばらしいパノラマ写真が作れます

特に長い地平線のみえる遠景撮影に効果があります

¥ 2,500



動植物の生態撮影に……………



ロッコール TC 蛇腹用レンズ

F 4 135 mm

蛇腹装置に取付けて使用しますと、風景撮影からそのまゝ 1/4・1倍までの接写ができますほかに複写・スタジオなどの広範な撮影領域にも役立ちます

ケース ¥ 900

¥ 8,100



一般撮影はもちろん文献、拡大撮影に最適な……

新設計 マクロ ロックール QF

F 3.5 50mm

画 角 45°

フィルターネジ 径 55mm

接写用具を使用せず焦準リングの回転で∞から23cmの近距離まで撮影できます。特に文献・複写などでは完璧な描写力が得られます

撮影倍率，露出補正目盛付で、専用中間リングを使うと等倍までの撮影が可能です

¥ 18,500
 ケース ¥ 1,000



SR 交換レンズの最高峰
 オートズームロックール
 (完全自動絞り)

F3.5 80mm~160mm

画角 32°~16°

フィルターネジ 径 77mm

最短撮影距離—2.5m

アタッチメント使用時—1.4m

当社の技術陣の粋を集めて完成したもっとも実用的な小型軽量ズームレンズです。

機械補正式でズーミング中焦点移動がなく、長焦点にしても明るさが変化しない特徴をもち、常に鮮鋭な画像が得られます。一本のレンズで数本分の働きはもちろん、ズーム効果を利用して適切な構図を決めるのに便利です

レンズ ¥ 72,300

フード ¥ 1,500

ケース ¥ 2,200

アクセサリ

近接撮影に必要な中間リング, 蛇腹装置



中間リング

SR用中間リングは5コ1組となっていて各種の組合せにより標準レンズの最短撮影距離から連続的に約23cm(実物の1.4倍)まで55ミリの標準レンズで撮影ができます

¥ 2,500

蛇腹装置



(普及型)

微小物の拡大や超接写に必須のもので、動植物の生態写真・科学写真の撮影に便利です

普及型は携帯に便利な折たゝみ式になっています。デラックス型は、スライドネガの複写装置がついており、スライドネガから更にトリミングをして撮影することもできます

普及型 ¥5,000

デラックス型 ¥9,500



複写装置

カメラを支持台にとりつけて印刷物・写真・絵などの複製
保存や研究用の標本撮影に利用します
中間リング、蛇腹装置を併用してパララックスのない一眼
レフの利点を充分活用することができます

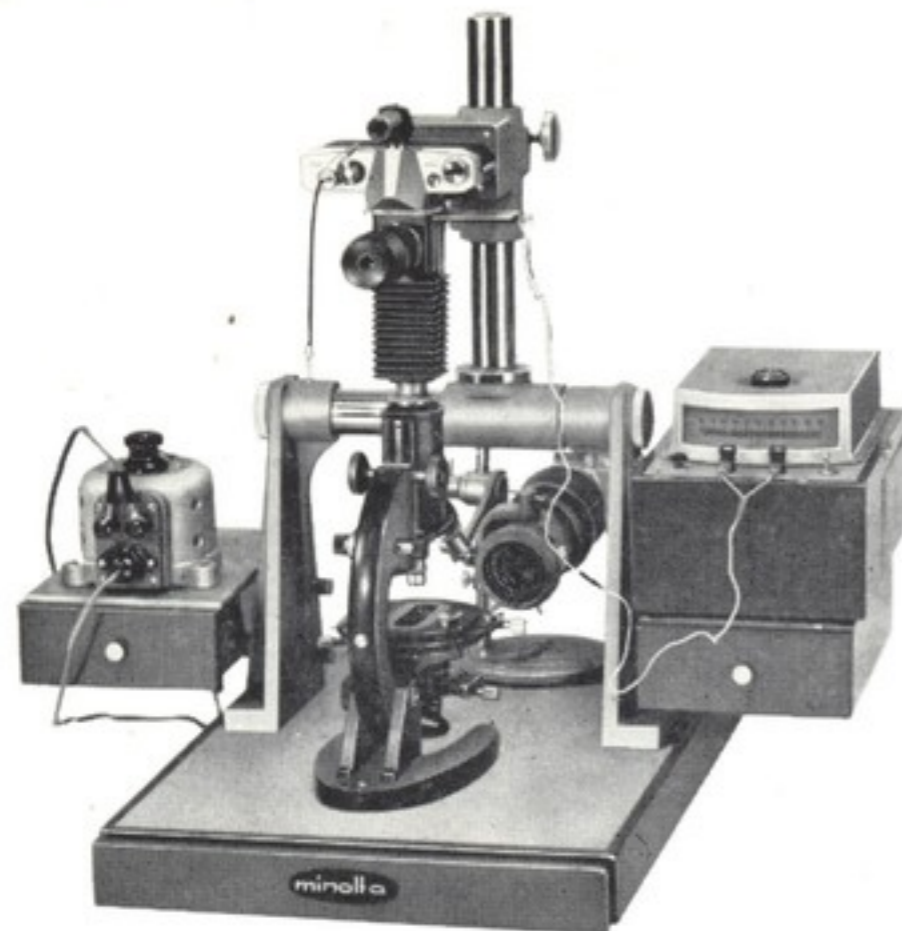
¥ 7,500



顕微鏡アダプター

このアダプターはカメラと顕微鏡間を連結して被検物を
ファインダーでみながら簡単に撮影できる簡易顕微鏡ア
ダプターです

¥ 2,800



万能顕微鏡写真撮影装置

学術研究・犯罪捜査など、顕微鏡写真を専門に撮影される方々を目標に、完全な装備をなしているのがこの装置で本体は十分な防震装置がなされているほか、高感度露出計照明装置も附属しています。またどんな顕微鏡にも使えます

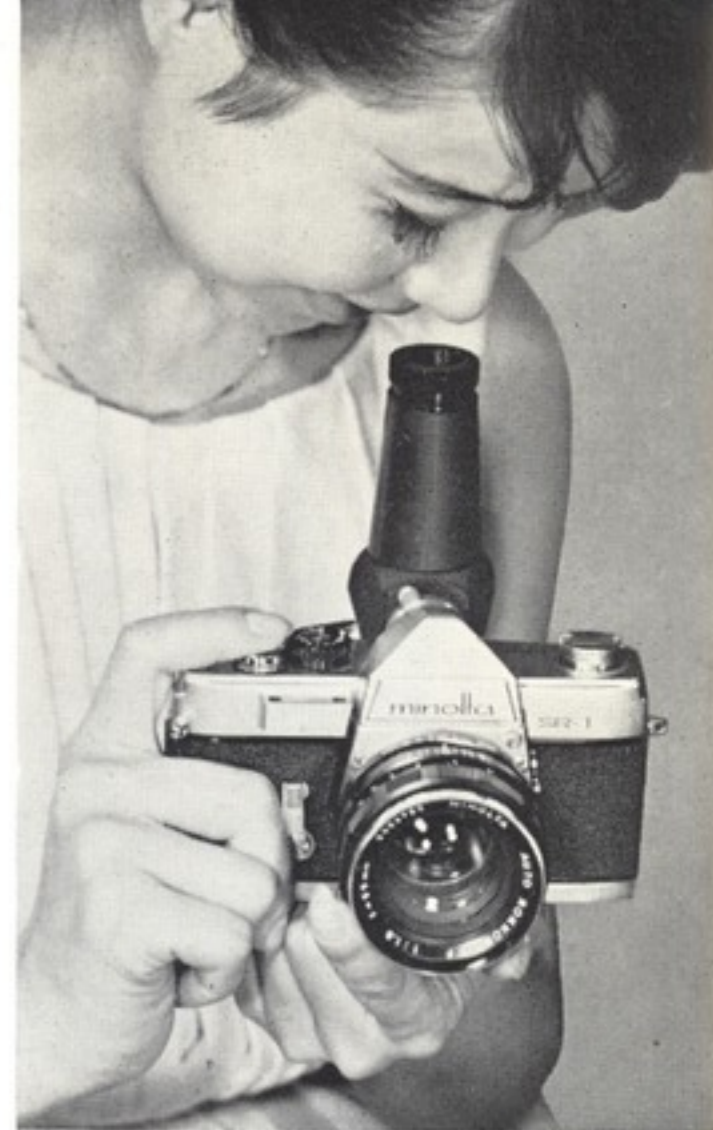
¥ 147,000

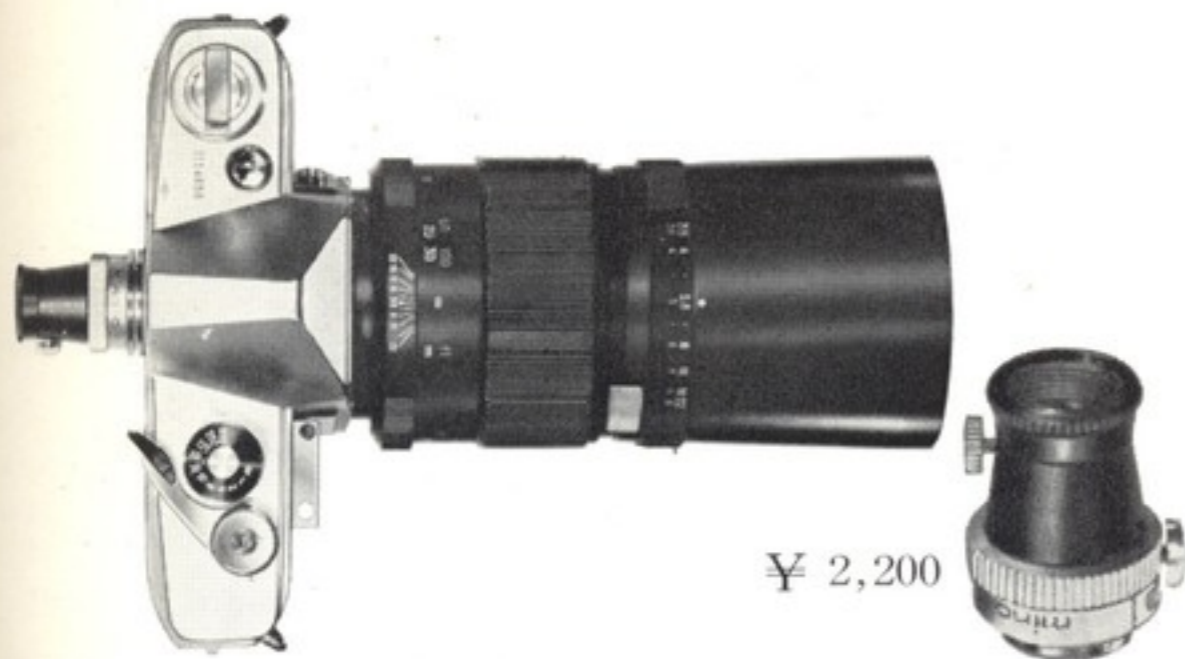


アングルファインダー

二眼レフのような胸高の撮影や、ロー・アングルの撮影横向き、後向きの撮影に便利なほか、複写台を利用する時とか顕微鏡写真の撮影に用いると大変便利です

¥ 4,000





¥ 2,200

マグニファイヤー

ファインダー接眼部に取りつけて使用すると、より一層精密にピント合わせができますので接写・複写などに用いると便利です



視度調整アタッチメント

SR のファインダーは明るく見やすいので従来の35ミリカメラに比較すると大変使いよいのですが遠視の方はそれでも不便な場合があります

このようなとき視度調整レンズをカメラの接眼部に取りつけばより正確に焦点合わせができます

¥ 350



アクセサリクリップ

フラッシュガン・メーターなどを使用したい時、接眼部にアクセサリクリップをとりつけます

¥ 300

アクセサリ



レンズフード

レンズに入射する不必要な有害光線を除去しスッキリした映像を作るために、各レンズの画角に適合する専用レンズフードを、標準レンズから広角、望遠まで各種レンズ専用のフードとして完備しています。なお100ミリ以上のレンズはフード付で発売しています

F 2.8 F 4	35 35	ミリ ミリ	} 兼用	¥ 1500 (ケース付)
F 2 F 1.8 F 1.4	55 55 58	ミリ ミリ ミリ		
			} 兼用	¥ 900 (ケース付)

フィルター



被写体の色合いを白黒の写真で再現する時、被写体の色の度合を肉眼で見た状態に近い濃淡に表現したり、ある特定の色彩のみ強調する時に使用します

ミノルタフィルターは厳選された光学ガラスを使用し、標準レンズ、広角、望遠まで各種レンズ専用のフィルターを完備しています(ねじ込み式)

F2.8, F 4	35	ミリ	} 兼用 ¥ 1,000 (径55ミリ)
F1.8, F1.4	55	ミリ	
F3.5	100	ミリ	
F2.8	135	ミリ	¥ 700 (径 43)
F 4	100	ミリ	
F 2	100	ミリ	¥ 2,400 (径 62)
F 4	135	ミリ	¥ 800 (径 46)
F3.5	200	ミリ	¥ 2,700 (径 67)
F4.5	300	ミリ	¥ 4,000 (径 77)
F5.6	600	ミリ	¥21,000 (径126)

アクセサリ



偏光フィルター

通常光は進行方向に直角な面で、あらゆる方向に振動しますが、偏光フィルターを通った光は一方向にのみ振動します。この性質を利用したのが偏光フィルターで硝子面、水面などの非金属面の反射光や青空からの光を抑制する時使用します

F1.8, F1.4	55 ミリ	}	¥ 3,000
F3.5	100 ミリ		
F2.8	135 ミリ		
F2.8	35 ミリ	}	¥ 4,000
F4	35 ミリ		



ミノルタユニバーサル発光器

夜間や、うす暗い光量不足のところで撮影する場合に SR のファインダーにアクセサリークリップを取り付けこれにフラッシュガンを固定して使用すると便利です

¥ 1,400



ライカマウントアダプター

ライカ用のレンズをSRに使用する時のアダプターですが、一眼レフの機構上、ライカ用レンズを使用する時は近接撮影だけしかできません

上側の写真はアダプターを取り付けるためのライカ器
です

¥ 600



エキザクタマウントアダプター

エキザクタ用レンズをSRに使用するためのアダプターで
エキザクタのレンズが無限遠から近距離まで使えます

¥ 1,000



フォトオシロスコープ撮影装置

学術工業生産にブラウン管オシロスコープの使用が増加してきております。電気波形の忠実な記録により一段と精密な観測及び測定が可能です

¥ 29,000

一カ年品質保証

カメラの化粧箱の中に入っている愛用者カードは、所要事項をご記入のうえ、大阪本社業務課宛お送りください。そうすれば、あなたのカメラは当社の台帳に記載され、折返し一カ年保証証書をお送りいたします。修理の時や、今後のあなたとの通信連絡、あるいは万一の盗難の時にも役立ちます

万一故障の場合は直接大阪本社或は当社の各サービスステーションへご相談またはお送りください。一番速くお手許へ届きます

完備したアフターサービス

当社のサービスステーションは下記の所にあります。カメラのご相談、修理など、ミノルタカメラ一切のアフターサービスをいたしております

またミノルタカメラおよび各種付属品のカタログも用意しております。お手紙またはお電話でご遠慮なくお申しつけください

(愛用者カードは10日以内にお送りください)

サービスステーション

札幌

札幌市北2条西3丁目 越山ビル内 TEL ⑤ 9681

東京

東京都中央区銀座東6の7 木挽館本館内
TEL (542) 1267. 1268

大阪

大阪市南区塩町通り4-18 TEL (271) 8671

名古屋

名古屋市中区広小路通り4の8 名神ビル3階 TEL (23) 3528. 4044

広島

広島市基町 第二広電ビル4階 TEL ② 2201

九州

福岡市大浜町3丁目25の2 迎陽ビル内
TEL ③ 3756

ニルタカメラ

ニルタカメラ